ライオン誌（毎月20日発行）第54巻第8号 2012年1月20日発行 第3種郵便物認可

IN JAPAN Official Publication of Lions Clubs International
WWW.THELION-MAG.JP FEBRUARY 2012
2

自然エネルギー最前線

2011-12年度　全日本会員増強アワード

現在、日本ライオンズを取り巻く現状は、大変厳しいものがあります。
　八複合地区ガバナー協議会議長連絡会議では、日本が抱える諸問題に積極的に取り組むべく議論を重ねているところであります。そうした中から、本年度も全日本レベルで会員増強アワードの表彰を行おうということになりました。この表彰により、日本のライオンズクラブが少しでも活性化され、各クラブの発展につながり、次世代へのステップとなることを強く希望致します。

2011-12年度八複合地区ガバナー協議会議長連絡会議

■受賞資格：○1人で5名以上をスポンサーした会員
○1クラブで10名以上の会員純増を果たしたクラブ
（いずれも、2011年7月～2012年2月末までの期間の実績を対象とする）

■応募要項：上記に該当する会員はクラブ名と氏名、スポンサー数、該当するクラブはクラブ名と会員純増数を明記し、所属地区の地区ガバナーのサインを受けて応募してください。詳しくは各複合地区ガバナー協議会事務局へお問い合わせください。

■応募先：日本ライオンズ連絡事務所（会員増強アワード係）
〒104-0061 東京都中央区銀座4-12-19 日章興産ビル5階（TEL.03-3547-7061 FAX.03-3547-7076）

■応募締切：2012年3月9日必着

■審査：審査には国際理事と各複合地区ガバナー協議会議長が当たります。審査結果は4月末までに各複合地区へ通知します。

LION MAGAZINE IN JAPAN
February 2012, Vol.54 No.8

We Serve CONTENTS

■2012年2月号
表紙
京都市右京区
旧京北町
写真／鈴木秀晃

本誌は環境に配慮したFSC®認証紙を使用しています。

MESSAGE FROM THE PRESIDENT

4月には環境保全の取り組みを

皆さんは既に木を植えてくださったでしょうか？　ご存じのように、今年度私は100万本の植樹を呼び掛けてきました。ほとんどの会員が喜んで引き受けてくれたため、これまでの植樹本数は700万本に達しています。

北半球に近づく春を前に、私は引き続きライオンズに環境保全を奨励したいと考えています。4月には最後のグローバル奉仕実施キャンペーンとして、ぜひ環境事業に取り組んでください。例えば、河川や沿道の清掃、携帯電話のリサイクル、 処方薬の適切な処分、学童の環境コンテストのスポンサーなどの事業です。かけがえのない地球を可能な限り大切にしようと、一人ひとりが心に決めてほしいのです。

植樹もその方法の一つであり、それは苗木を選ぶこと、適切な場所に植えること、大切に育てること、という三つの簡単な手順で行えます。これらの手順を実現出来るかという問いに、皆さんは「もちろん！」と答えるでしょう。それは結果的に、会員を大切に育てるという第4の手順を容易に達成することにつながります。

つまり、植樹事業は環境にとって有益であるだけでなく、有効な会員増強活動のモデルにもなる、ということです。クラブの増強を支援するには、まず奉仕意欲に満ちた候補者を見つける必要があります。次に彼らを適所に配する、言い換えればそれぞれに適したクラブを探します。そして最後の最も重要な手順は、その会員を大切に育てていくことです。そのためには、彼らを家族の一員として迎えなければなりません。テーブルに席を設けてそれぞれが楽しめる役割を与え、一人ひとりを大切に思う気持ちを示してください。

今年度私は、ライオンズの奉仕の使命を信じること、会員が家族同然になることの大切さを強調してきました。これら二つの概念は、あらゆる環境事業の根幹を成すものです。資源を守ることは、未来を信じることに他なりません。私たちが今行動を起こすのは子孫のためであり、彼らの未来を信じているからです。

私たちはまた、人類という家族を信じています。環境保全の取り組みは、地球上のあらゆる存在への愛ある気遣いの表れです。したがって4月には、真のライオンズとしてかけがえのない地球に奉仕しようではありませんか。奉仕の力と全人類の未来に対する信念は、世界中の無数の人々に計り知れない利益をもたらすことになるでしょう。

2011-12年度国際会長
ウィンクン・タム

THEME

自然エネルギー最前線

震災以降、関心が高まっている自然エネルギー。ヨーロッパの事例や日本国内での先進的な取り組み、また今後の可能性について、阿部博光別府大学准教授に寄稿してもらった他、神奈川県相模原市の住民有志による「串川発電クラブ」の活動を紹介する。

ネルギーの新時代が今、幕を開ける

大分県と国際社会の取り組みに見る自然エネルギー開発最前線

■阿部博光（別府大学国際経営学科准教授）

大分市生まれ。早稲田大学卒業後、1984年に時事通信社入社。大阪支社・編集部、東京本社・外国経済部、外信部を経て95年からロンドン特派員。2000年に退社後、エジンバラ大学院（英国）で修士課程（環境経済学）を修了。その後、時事通信社に復職し、ロンドン支局に勤務した。著書『大分発・自然エネルギー最前線自給率日本一の実力』など

自然エ

代替エネルギーのエース「地熱」は未来を変えうるか

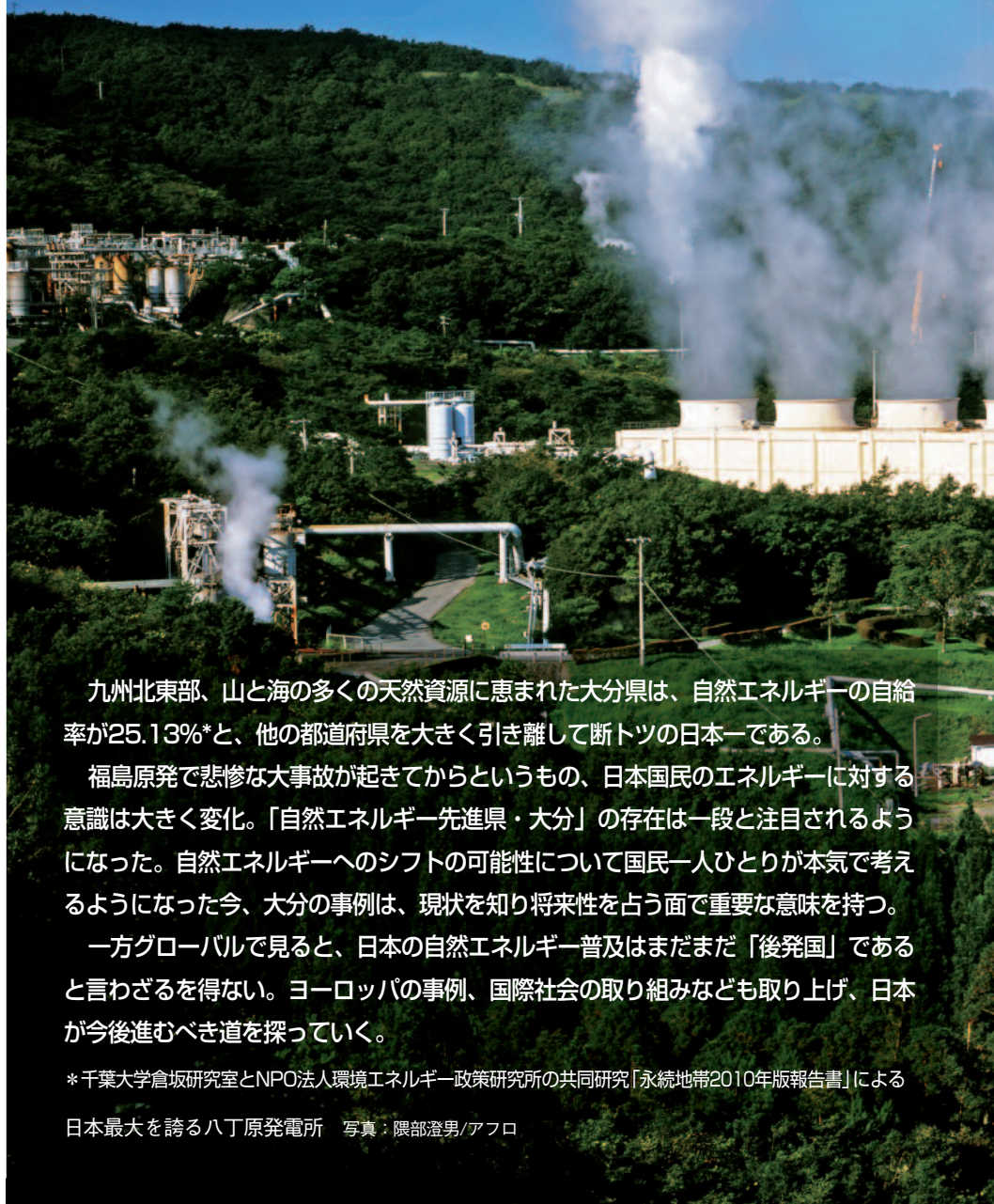
大分県が自然エネルギーの自給率で日本一であるのは、地熱の存在が大きい。中部に九重(くじゅう)連山という火山群を擁していることもあって、マグマを源とする地熱エネルギーの利用は盛んだ。

中でも玖珠郡九重(ここのえ)町にある九州電力・八丁原発電所の発電容量は11万キロワットと日本最大。展示館や見学コースを設けていることもあり、連日、企業、団体、学校などからの多くの見学者でにぎわっている。

そもそも、地熱は代替エネルギーの主力として有望視されている。風の吹く時にしか電気が起きない風力発電、昼間しか稼働しない太陽光発電などと違って、24時間享受することが出来る「大地からの贈り物」であるからだ。地熱発電は事実上、連続運転が可能となり、安定したベース電源になりうる。

しかしその一方で、開発における課題も少なくない。

①開発可能な対象の大半が国立公園の特別区域内にある
②初期投資のコストが高い
③リードタイム（調査開始から運転までの期間）が長い

ことなどがネックとなって、新たな開発が困難な状況となっている。これ

九州北東部、山と海の多くの天然資源に恵まれた大分県は、自然エネルギーの自給率が25.13%*と、他の都道府県を大きく引き離して断トツの日本一である。

福島原発で悲惨な大事故が起きてからというもの、日本国民のエネルギーに対する意識は大きく変化。「自然エネルギー先進県・大分」の存在は一段と注目されるようになった。自然エネルギーへのシフトの可能性について国民一人ひとりが本気で考えるようになった今、大分の事例は、現状を知り将来性を占う面で重要な意味を持つ。

一方グローバルで見ると、日本の自然エネルギー普及はまだまだ「後発国」であると言わざるを得ない。ヨーロッパの事例、国際社会の取り組みなども取り上げ、日本が今後進むべき道を探っていく。

＊千葉大学倉坂研究室とNPO法人環境エネルギー政策研究所の共同研究「永続地帯2010年版報告書」による

日本最大を誇る八丁原発電所　写真：隈部澄男/アフロ

別府市街地に立ちのぼる湯けむり

らの課題を克服するには規制緩和、支援策の充実など政策面での改善が一段と必要となる。

また、地熱開発が温泉の枯渇につながるという懸念が出ていることも大きな阻害要因だ。国内18カ所にある地熱発電施設の場合、開発が周辺の温泉に影響を与えたとの報告は出ていないとされるが、新たな開発計画が温泉業者の猛反対で中止に追い込まれたケースもある。

大分県の地熱発電施設の場合、発電所側が熱交換で生じた熱水を近隣の旅館や一般家庭に分湯したり、蒸気で調理を行う「蒸し場」を提供したりするなど、地域との共存関係の構築に努めている。建設時には地元から生産資材を発注したり、多くの雇用が創出された他、現在でも定期検査に多くの技術者、工事関係者らが地元の旅館に宿泊したり、多くの見学者の訪問で土産店、宿泊施設が潤うなど経済的な効果も出ているようだ。

観光だけではなく、発電にも、温泉パワーをフル活用

大分県らしさが発揮された自然エネルギーの例は、一日の温泉湧出量が12万6千キロリットルと日本一の規模を誇る別府市にもある。温泉を活用した発電装置の開発だ。別府には熱水と共に高温・高圧の蒸気が噴き出ているところが多い。これを使ってタービンを回して電気を起こそうという仕組みだ。通称は「湯けむり発電」。開発に携わっている大分市内の電気工事会社興栄の木原倫文社長は、2012年春に別府市内で「湯けむり発電システム」の実証実験を開始し、改良を加えながら2013年春には実用化に持ち込みたいとしている。

またこれと並行し、温泉熱と低沸点媒体を熱交換することによって発電する「温泉熱発電」の開発も進む。別府市の場合、90％の温泉が無駄に海に流されており、これを利用しない手はない。近い将来、別府の温泉街では湯けむり発電や温泉熱発電を取り入れた環境旅館が、あちこちで話題を呼んでいるかもしれない。

もちろん、自然エネルギーは電力源となるだけではない。観光誘致にも役立つなど地域おこしにも貢献する。別府市は、古くから地熱エネルギーを観光に取り入れていることでも有名だ。

地熱の観光利用の代表格が「地獄」。あふれんばかりの大量の熱湯、勢いあまる噴気を利用した観光施設だが、赤い熱泥を噴出する「地の池地獄」、コバルトブルーの湯が沸く「海地獄」、間欠泉が売り物の「龍巻地獄」、灰色の熱泥が沸騰する「鬼石坊主地獄」など他に類を見ない地熱資源がそろう。

一方、観光客が、高温の蒸気で肉や魚介類などを一気に調理することの出来る「地獄蒸し工房」も待ち時間が出るほどの人気がある。市内のあちこちにある「足湯」では、観光客が湯の町ならではの休息を楽しんでいる。この他、温泉熱を利用して育てた熱帯植物、熱帯魚などを展示する施設もあり、別府では、地熱の恩恵と観光とがうまくリンクしている。

噴気で調理する観光客

大分県の有力地方紙『大分合同新聞』（2011年12月6日付）によると、

広瀬勝貞知事は県議会で「エネルギー政策日本一の先進県」を目標に掲げた。具体的には、地場企業の新技術開発を一段と支援し、地域分散型の自然エネルギー導入拡大を目指すという。まさに県を挙げての自然エネルギー開発が進んでいると言ってもいいだろう。

わずかな落差も見逃さない、アイデア勝負の小水力

この他、大分県の特徴としては、小水力発電の例を挙げることが出来る。巨大なダムを造らず、自然の川の流れなどを利用して発電する小水力発電は、水利権が問題になることが多い。しかし大分県日田市の開発状況を見れば、「アイデアが勝負」とも言えそうだ。

地下からくみ上げた日田の名水を利用するサッポロビール九州日田工場。こちらでは製造過程で生じる毎時100トン前後の排水が発電に利用されている。工場が高台に位置することから、30メートルの高低差を生かして排水を低地の発電小屋まで一気に落とし、得た電力を工場で利用している。

下水処理場の日田市浄化センターは、処理水が落ちるわずか1・5メートルの落差に着目し、そこに発電装置を設置する計画を打ち出した。また市街地を見下ろす鏡坂公園には、園内を流れ落ちる幅70センチほどの水路にも発電機が設置される予定である。

ビール工場にしろ、下水処理場にしろ、「水の流れるところならどこにでも」という小水力発電の利点をうまく生かそうとしている。

そして極めつけは砂防ダムを利用した「鯛生小水力発電所」（日田市中津江村）。ダムの脇に取水口を設け、そこから水を取り込んで、落差18メートルの発電所へと流すシステムだ。電力は近くの観光施設「地底博物館・鯛生金山」で使用される。同発電所は、経済産業省が地域の特徴を生かしながら観光資源と自然エネルギー開発を結び付けたとして「新エネ百選」に選定するなど評価は高い。

「新エネ百選」に輝いた鯛生小水力発電所

また、日田市では、小水力発電の他にバイオマスを有効活用している。「日田市バイオマス資源化センター」では、生ゴミや豚の糞尿の発酵によって生じたメタンガスで発電。発酵後に残った固体と液体は、それぞれ堆肥と液肥となるため、あますところのない循環型のシステムがうまく機能している。この他、製材所や造園業者、農家などから出る木質のバイオマスを燃料チップとして燃焼させて発電をする「日田ウッドパワー」、木くずを粉砕し、水分を取り除いて作ったバイオペレットを製造する「フォレストエナジー日田」などが稼働。こうした活動が評価され、2005年に農林水産省によって日田市は「バイオマスタウン」に認定されている。

自然エネルギーの開発、キーワードは「共存」

再生可能で地球に優しい自然エネルギーの開発は、その地域の自然環境を利用して行われる。よって地元との共存関係、信頼関係の構築が成功するかどうかによって開発の行方が左右されることも多い。

地域の開発は、地元にも利益を還元して景気浮揚に貢献する、いわゆる「ウィン・ウィンの関係」を築くことが必要だ。自然エネルギー開発が企業や行政によって一方的に進められ、利益が地域にほとんど還元されないというのであれば、それは「持続可能な社会」を築いているとはとても言えない。

地域との信頼関係の構築などに関し

ノルウェーで実証実験中の浮体式風力発電（写真：シーメンス社提供）

ては、原子力発電や火力発電の分野でも必要となるわけだが、特に原子力分野に関しては、この関係がうまく築かれていない例の方が多いようだ。

福島の大事故では、発生当初から情報提供が十分ではないと批判を浴びた。原発に関しては、今回に限らず、過去にもトラブル隠し、データ改ざん問題なども相次いでいる。

透明性に欠ける行為が一度でもあれば、地域と発電事業者の間に信頼関係を保つことは一層困難となる。こういった不祥事があった後に、事業者側が透明性を保つ努力をしても、地域側は「まだ何か隠しているのではないか」と見てしまうからである。そういった意味では、たとえ原発とは比較にならないほど安全な自然エネルギーの開発であろうと、事業者は地域に対して透明性を維持させる必要があるだろう。万が一、事故が起きた場合はすぐに公表する。どのような影響が及ぶのか、またどのような解決方法をとるのかをすかさず説明するなどの措置をとることが肝心だ。

更に、自然エネルギー導入は地域住民に「環境」を考えるきっかけを与える。そもそも自然エネルギーは、地球温暖化の原因となる二酸化炭素（CO_2）を排出する化石エネルギーに代わるものとして注目を浴びるようになった。

地域の住民、特に子どもたちが自然エネルギーと接することが出来るようになれば、おのずと環境全般に対する意識改革も推し進めることが出来る。地域に大型風車（風力発電）が1本建つだけで、住民の環境意識は全く違ってくるのではないだろうか。

ヨーロッパで勢い増す洋上風力発電

世界全体でみると、自然エネルギーは急成長の過程にある。「21世紀のための自然エネルギー政策ネットワーク（REN21・本部パリ）」が発行した『自然エネルギー世界白書2011』によると、2010年の自然エネルギーへの新規投資総額（大規模水力を含む）は2110億ドル（約16兆円）に達した。これは前年に比べると約32％の伸びであり、04年比では約10倍の水準。まさに倍々ゲームの様相を示している。これに伴って自然エネルギー産業による雇用者数も拡大の一途をたどり、2010年は推計で350万人を上回った。特に成長が目立つのは風力発電。これまでは欧米諸国での普及が目覚ましかったが、ここ数年は、欧米に加えて中国、インドなど新興国が急成長を遂げている。

またヨーロッパでは、洋上での大型風力発電施設の建設が目立つ。イギリス南東部テムズ河口域では2010年、頂点までの高さ150メートル前後の大型風車100基が建ち並んだ洋上ウインドファームが誕生して話題となった。

しかし、これで驚いてはならない。

同河口域の洋上には2013年までに風車が全部で540基も建設される予定であり、完成すれば135万世帯分の電力を賄うことが出来る。ヨーロッパ全域を見ると、風力発電の成長はもっとすさまじい。イギリス、デンマーク、ノルウェー、オランダ、ベルギー、ドイツに囲まれた北海地域では洋上ウインドファームの建設ラッシュが続き、その規模は最低でも現在の20倍にも膨れ上がる見通しという。

　更にノルウェーでは、大型風車を海に浮かべようという試みも登場した。浮体式と呼ばれるシステムで、日本のように浅瀬の少ない国でも開発が可能となる。海底に直接建設する従来の方式とは違って、フェリー運航、漁業、野鳥などへの影響も少なくなるとみられ、実証実験の行方が注目されている。

イギリスで実証実験中の潮力発電
（写真：マリーン・カレント・タービン社提供）

　一方、イギリスでは波力、潮力を利用した発電システムの開発も進行中だ。内外のベンチャー企業に対し、北部スコットランドの港湾、海域10カ所を開放し、各企業はそれぞれの工夫をもとに研究に取り組んでいる。四方を海に囲まれる日本も、このような海洋エネルギー開発に着手すべきだろう。

国際的に加速する自然エネルギー開発

　それでは、自然エネルギーに関する国際社会の取り組みの現状はどうなっているのか。地球温暖化だけではなく、エネルギー安全保障の問題などもあって、自然エネルギー開発は多くの国際会議で議論されるようになり、各国政府もこれに呼応する形で政策を進めるようになった。

　政策で特に注目を集めたのが、自然エネルギーを使って発電した電気をコストに見合う価格で電力会社が買い取る「固定価格買取制度」（以下FIT）。FITは世界の多くの国で採用され、飛躍的な普及を実現させた例が多い。技術革新を促進したり投資を呼び込んだりする効果も大きい。

　日本ではやっとと言うべきか、2012年7月に同様の制度がスタートする。日本の多くの企業は、その導入を見越して早くも自然エネルギー開発に動いており、今後はエネルギー産業の勢力地図を塗り替える可能性すら秘めている。

　一方、世界では、REN21のような国境を超えた政策ネットワークが普及に大きく貢献している。世界自然保護基金、グリーンピースなど世界を代表する環境保護団体、NPOも自然エネルギー普及活動に力を入れており、まさに国際社会では、あらゆる側面から普及の動きが芽生えている。

ボンで開かれたIRENA設立総会（写真：ドイツ外務省提供）

　11年4月、自然エネルギーに特化した国際機関「国際再生可能エネルギー機関（IRENA）」が正式発足した。自然エネルギーの開発・普及についてアフリカなど発展途上国を含めてグローバルに進めることを目的としており、今後は世界全体の自然エネルギー体制でイニシアチブをとっていくことになりそうだ。

　また、ブラジルのリオデジャネイロで6月に「国連持続可能な開発会議（リオ+20）」が開かれることも、自然エネルギー開発の追い風となるだろう。リオ+20は、気候変動枠組み条約を締結するきっかけとなった歴史的な国際会議「国連環境開発会議（地球サミット）」開催から20年が経過するのを機に開かれる。地球温暖化防止の有効手段としての自然エネルギー利用について、国際的な取り組みが議論されることは間違いない。

手作り発電所が、地域の絆をつなぐ

神奈川県相模原市緑区長竹地区の山里に、太陽光と風力を利用した住民手作りの小さな発電所「長竹自然力発電所」がある。震災以降、脱原発、自然エネルギーへの転換が叫ばれているが、そんな大それた話ではなく、ご近所の絆を深めたユニークな発電所だ。

文／渡辺朋和　写真／田中勝明

非常時にも電気が使える いざという時の安心

長竹自然力発電所は、元大手電機メーカーのエンジニアだった奈良義郎さん(57)を中心に集まった約20人の男性らが、奈良さんの敷地にある農機具小屋を改造して作った発電所だ。屋根に太陽光発電パネルを設置、小屋の脇には鉄柱を建て、直径60㌢の小型風力発電機を立てた。発電した電気はバッテリーに蓄電して、農作業や防犯灯、イルミネーションに利用している。マウンテンバイクに軽自動車で使うダイナモ(発電機)を取り付け、ペダルを漕いで発電する人力発電機も開発。これは冗談半分で作ったものだが、時折、発電所に遊びに来る小学生たちに好評だ。

発電所が完成したのは2010年3月。完成当時、地元の人たちの反応は「おじさんたちが集まって、何だか変なことを始めたな」程度の冷ややかなものだった。ところが震災以降、地元新聞の1面に掲載されたり、テレビの取材もあったりと、奈良さんは地元の有名人になってしまった。おかげで自分たちも同じような発電所を作りたいというグループも見学に訪れるようになり、自治会で年1回開催するウォー

キングイベントでは、発電所の前にイベントの参加者100人を集め、デモを行ったこともある。小学校からは総合学習の授業で使わせてもらえないかという打診もあり、奈良さんは震災以降の自然エネルギーへの関心の高まりを実感した。

ただこの発電所は小型の太陽電池パネルや風力発電機を使っているので、1日に発電出来る量は3キロワット前後と、一般的な住宅用太陽電池に比べても、4分の1か5分の1程度の発電能力しかない。

地域にある自然エネルギーを使って、エネルギーの地産地消を実現するにはほど遠い規模だが、災害時の緊急用電源としては実用的に使えそうだ。

例えば携帯電話の充電。災害時にはテレビにもなる携帯電話は災害情報を得るための命綱になる。普段の生活でも携帯電話のバッテリーがなくなると心細くなるものだが、災害で停電、携帯電話の充電も出来なくなると、一層不安になるだろう。そんな時、長竹発電所に行けば充電出来るとなれば、地域の人たちの不安解消にも役立つ。

同じような発電所を数カ所設置して、防犯灯の電力を賄えるようになれば、これまで自治会費から捻出していた電気代分を、別の活動に使えるようにもなるだろう。

しかし今回の取材を通じて地域に貢献していると感じたのは、発電所作りをきっかけに地域住民の新しいつながりが生まれたことだ。

周辺には畑や田んぼが広がるが、専業農家は少なく、定年退職後に実家に戻り自給的な農業を始めたところが多いと奈良さんは言う。会社勤めの人が多くなったため、地域住民のつながりは昔ほど深くなくなっているのが現状だ。

発電所を作ろうと集まったメンバーだけでなく、地域に住む人たちの関心を集めたことで、少しだけ地域のつながりが活性化されたようだ。

昔話を肴に飲もうと始めた「かわっぷちの会」

発電所作りは2人の奈良さんが発端となった。一人は先に紹介した奈良義郎さん。もう一人は、地元で鉄工所を経営する奈良只夫さん(53)だ。義郎さんと只夫さんは小学校の時、集団登校で毎日、一緒に学校に通っていた仲で、しかも義郎さんの妹が只夫さんと同級生という間柄だ。

発電所を作る前、2人の奈良さんが近くを流れる串川沿いに住む人たちを集めて何か楽しいことをやろうと、「かわっぷちの会」を立ち上げた。この会は、資源ゴミの回収など地域活動

もするが、堅い話は抜きに、昔話を肴に飲んだり遊んだりする会だ。

只夫さんは地元の消防団で副団長を務めた経験がある。最近では地域の活動に参加する人が少なくなり、住民の交流も希薄になってきたと感じていた。特にお年寄りと若い世代といった世代間の交流も少なく、かわっぷちの会を作って若い人たちと地域のお年寄りが交流出来る場を作り、じいちゃん、ばあちゃんを元気にしたいと日頃から思っていたそうだ。

一方、義郎さんは、地域活動やボランティアにさほど関心がなかったものの、地元で何か楽しいことをやりたいという点では只夫さんと一致。2人は意気投合して、かわっぷちの会が出来た。

これと前後して、義郎さんは農業用水路や沢に水車を設置して発電機を回す小水力発電を、自分で作ってみたいと考えていた。

2008年に相模原市が市内で小水力発電に適した地域の実地調査を行い、いくつか適地があることが分かっていたが、調査後、実際に小水力発電が行われることはなかった。そこで義郎さんは、「市がやらないのなら自分たちでやれないか」と発電所の計画を温めていた。

かわっぷちの会の飲み会で、たまたまこの計画を話したところ、只夫さんが自分と同じように自然エネルギー発電に関心があることが分かり、一緒に手作りの自然エネルギー発電所を作ろうという話になった。周りにも声を掛けると計画に賛同する者が20人も集まった。地元を流れる串川にちなんで串川発電倶楽部を結成し、発電所建設は一気に実現に向けて動き出した。

技術と知識を持ち寄り、みんなで完成させた発電所

発電所は義郎さんが所有する農機具小屋を改造して作ることにしたが、問題になったのは設備を購入する資金をどうするかだ。

総工費は約80万円。その一部は地域活性化を目的とした市の交付金を利用することにした。しかし串川発電倶楽部の結成が、09年の秋。交付金は年度内、つまり翌年の3月末までに使わなければいけないという。

小水力発電を作った経験のない奈良さんたちには、期限までに完成させることは不可能に思えた。そこでまずは簡単に出来る風力、太陽光、人力の三つのエネルギーを使った発電所を作ることになった。

幸いメンバーには電気関係のエンジニアだった義郎さんを始め、鉄工所経営、自動車整備士など、専門的な技術を持つ人材がいて、材料を実費で提供してくれる人がいたり、メンバーがボランティアで工事をすることで、期日までに完成させることが出来た。

例えば小屋の屋根が傷んでいたので、メンバーでペンキを塗り直した。太陽電池パネルをのせるフレームは、鉄工所を経営する只夫さんが実費で製作、据え付け工事はメンバー総出で行った。

風力発電機を設置する鉄柱の基礎は、建設業のメンバーが、材料費の実費だけで工事をしてくれたし、電気系統の設計、配線は電気の知識を持つ奈良義

郎さんが担当し、毎日、時間を見つけてはコツコツ作業した。

人力発電機は、マウンテンバイクとダイナモ（発電機）を固定するフレームを鉄工所を経営する只夫さんが作り、ダイナモはメンバーで自動車整備士の箕輪理さん（40）が、軽自動車で使っていたものを提供した。

義郎さんは、発電所作りがきっかけで地元には専門的な知識や技術を持っている人材が案外いて、本当はみんな何か楽しいことをしたいと思っていることを実感した。

「遊びの延長でありながら、地域貢献につながる活動が出来ると楽しいですよね」と義郎さんは話す。

コミュニティーの核となる、人が集まる発電所にしたい

只夫さんは発電所が、地域に住む人が集まれる〝場〟になってくれたらと期待している。

「そこに行けば誰かがいて、話が出来るようなコミュニティーの場になるといいですね。昔は井戸に水を汲みに行って、顔を合わせる人と情報交換や世間話をしていましたが、今はそれがない。発電所が昔の井戸の役割を担えるのではないかと思います。近所には休耕田も多いことですし、発電所に集まる人が協力して、田んぼを出来るようになると面白いですね」

只夫さんは、自分たちが言い出しっぺなので熱心に活動しているが、次の世代にバトンタッチして活動が続けられていかないと意味がない。ぜひ新しい人にも積極的に活動にかかわってもらいたいと言う。

「みんなで何かを作ることが、大変だけど楽しかったり、知らなかった人とのつながりが出来たり、それが楽しいと思ってもらえるようなことをしていきたいと思います」（只夫さん）

人力発電機のダイナモを提供した箕輪さんは、発電所を作ること自体も楽しいが、串川発電倶楽部は気心の知れた仲間と活動出来ることが楽しいと言う。

「自分がかかわっている自治会の資源ゴミ回収でも、最近では30代の人たちが、なかなか活動に参加してくれません。地域の活動は大変そうに見えるのでしょうか。本当は楽しいのに。楽しく活動することで、参加する人を増やしたいですね」（箕輪さん）

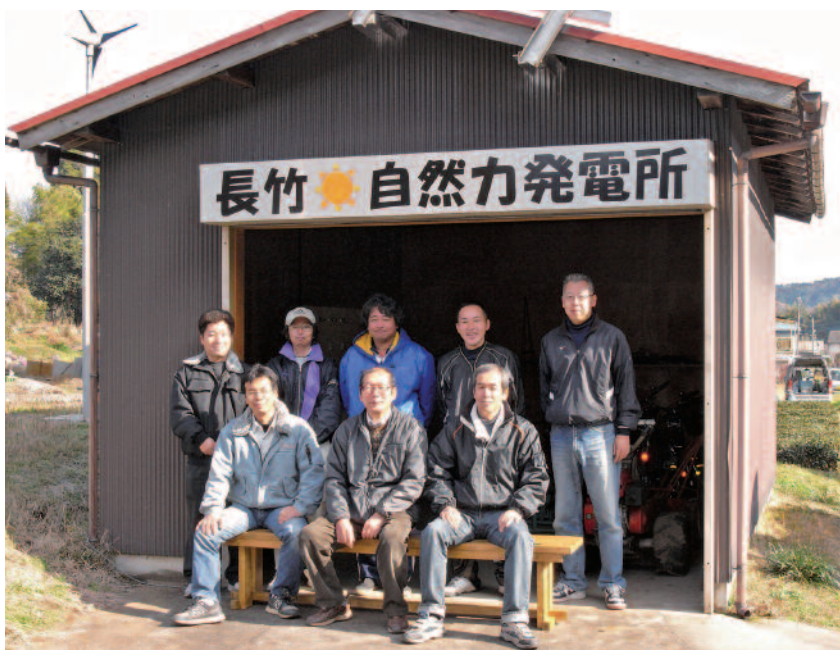
若い人が地域活動に参加しないのは、忙しいせいもあるだろうが、何となく堅苦しいイメージがあるのだろう。串川発電倶楽部のようにまず楽しむこと、それが地域の役に立つ、そんな発想で地域の活動を進めていってはどうだろうか。

いよいよ具体的になった小水力発電プロジェクト

取材の時、発電所の隅に転がっている小さな水車を見つけた。何に使うものか聞いたところ、当初、計画していた小水力発電に使う水車と発電機で、これもまた水車の部分を只夫さんが作ったものだという。

小水力発電の場合、水利権や工作物の設置にかかわる規制もあり、一筋縄ではいかないが、ようやく近くの農業用水路に設置して発電するめどが立ってきた、と義郎さん。相模原市ではこうした小水力発電は前例がないケースだが、行政も実現に向けて条例づくりに取り組み始めた。

義郎さんは、今後の活動について、こう語る。

「ようやく小水力発電が実現出来そうです。今は作った電力をどう使うかを考えているところ。地球温暖化や環境のことに全く興味がないわけではないのですが、まずは自分たちが楽しめることをやりたいと思っています」

被災地のライオンズは今

332-B地区（岩手県）

大船渡屋台村の開業とクラブ支部の結成

飲食店20店舗が軒を連ねる仮設店舗「大船渡屋台村」が12月20日、開業した。オープニング・セレモニーは大船渡市大船渡町にある屋台村中央部のイベント広場で開かれ、関係者や来賓約100人が出席。厨房設備など備品の支援を行ったライオンズクラブからは、地元332・B地区の髙橋晴彦地区ガバナーを始め、中居雅博332・A地区ガバナー、市内の大船渡、大船渡五葉両クラブ会員や、陸前高田、一関、釜石など、ブラザー・クラブの会員もお祝いに駆け付けた。

市の中心部が壊滅的な被害を受けた大船渡では、大船渡飲食店組合に加盟する60店のうち57店が、津波で流されてしまった。新たに店舗を再開する資金もなく、将来の見通しが全く立たない中、飲食店組合の及川雄右組合長は皆が力を合わせ、屋台村で再起を図ることを計画。経営コンサルタントを招請し、北海道帯広市の「北の屋台」や青森県八戸市の「みろく横丁」、山形市の「ほっとなる横丁」などを視察し、構想を具体化させてきた。その一つ「みろく横丁」では、同屋台村をプロデュースする中居ガバナーが、332・B地区の髙橋ガバナーに相談してみてはとアドバイスしてくれ、結果としてLCIF交付金での支援が実現。共通備品（ガス台、流し台、製氷機、冷蔵庫、冷凍庫、作業台／総額約1800万円）がライオンズから支援され、無事オープンにこぎ着けた。

「ただ、オープンが最終目的ではなく、屋台村を通して真っ暗な大船渡に明かりをともし、市民が気軽に足を運び、コミュニケーションを取りながら大船渡を元気にしていくのが、大船渡屋台村の役割。これからの方が大事だと思っています」

と、大船渡屋台村有限責任事業組合の及川雄右理事長は話す。また、屋台村店主と及川理事長により、大船渡ライオンズクラブの支部を結成することも決定。今後はライオンズの一員として、被災地・大船渡に奉仕で恩返しをしていくことにしている。（取材／鈴木秀晃）

岩手県大船渡市内のライオンズクラブ

厳しい現実の中 少しずつ前へ歩き出す

大船渡市は岩手県南部、太平洋に面し、北は釜石市、南は陸前高田市に挟まれている。大船渡港は岩手県内最大かつ最重要港湾で、市街地は大船渡町の大船渡駅前周辺と、盛町の盛駅西口周辺に展開、行政・司法の中心は盛町、交通・商業の中心は大船渡町であった。

東日本大震災では、大船渡湾に面した大船渡町が最も被害が大きく、やや内陸部の盛町も盛川をさかのぼった津波により多くの建物が損壊した。

下船渡地区では地盤沈下により海水が道路を覆っていた

大船渡市には1970年結成の大船渡ライオンズクラブ（崎山陽一会長／44人）と、1979年結成の大船渡五葉ライオンズクラブ（出羽秀二会長／30人）があり、大船渡ライオンズクラブは大船渡町、大船渡五葉ライオンズクラブは盛町を中心に活動している。震災後、活動を再開出来たのは盛町を拠点とする大船渡五葉ライオンズクラブの方が早かった。事務局を置いていた盛商業福祉会館の被害が比較的軽微だったこともあり、新年度から動き始め、震災後初例会は7月に盛町のそば屋で開いた。一方の大船渡ライオンズクラブは全会員が被災、事務局も津波で流され、大船渡町には会員が集まれる場所がなかったため、新沼学幹事所有の倉庫を改造し、9月になってやっと例会を開くことが出来た。事務局はライオンズの支援でプレハブを提供してもらえることになったが、市から設置場所の許可がなかなか下りず、やっと内諾を得たと思ったら今度は業者が手いっぱいで、いまだにめどが立っていない。

が、そんな中でも10月16日には10回目となる継続事業を、復興チャリティー・グランドゴルフ大会として開催した。これにはスポンサー・クラブである一関ライオンズクラブを始め第3リジョン第2ゾーンの5クラブが昼食の提供などで協力してくれた。また一関ライオンズクラブは結成50周年記念事業の一環として200万円を支援、大会運営に大きな助力となった。更に12月20日には、右の16ページで紹介したように大船渡地区に屋台村が完成、店主たちが支部会員として大船渡ライオンズクラブの一員になることも決まった。

大船渡ライオンズクラブの支部会員となる屋台村の店主たち

少しずつだが、前に向かって歩き始めた大船渡市内のライオンたち。それでも現実はまだまだ厳しい。屋台村支援で中心的役割を担った磯谷憲一ゾーン・チェアパーソン（大船渡五葉ライオンズクラブ）は次のように話す。

「仮設住宅にはいろいろな支援がありますが、在宅被災者にはほとんど届いていません。行政も把握していないんです。これを何とか出来ないか、今、模索しているところです。

また、全国のライオンズからさまざまな支援を頂きましたが、被災地にはまだまだ多くの課題があります。ぜひとも2年、3年と、何らかの形で支援を継続して頂きたいのです。よろしくお願い致します」（取材／鈴木秀晃）

2012年国際大会は韓国を代表するリゾート・シティー釜山で

年に一度、世界のライオンズが集い、インターナショナル・パレードで交流を深め、各種セミナーで情報を交換し、新国際会長の方針をじかに耳にしてその就任を見守る。国際大会は「ウィ・サーブ」のモットーの下、世界各国で活動する仲間の一員であることを肌で感じられる機会。その大会が、今年6月22日〜26日まで、韓国の釜山で開かれる。韓国での開催は1995年のソウルに続き2度目だ。

日本海を挟んで福岡から北へ約200キロ、対馬からはわずか50キロ、釜山は日本に最も近い海外の都市だ。福岡・釜山間は高速船でわずか3時間弱で結ばれている。ソウルに次ぐ韓国第2の都市で、人口は約350万人。「ダイナミック釜山」のキャッチフレーズの通り、世界で五指に入る規模のコンテナ物流量を誇る港湾都市として、また魅力的な観光リゾート地として活気を増している。

第95回ライオンズクラブ国際大会の舞台となるのは、韓国を代表するビーチ・リゾートとして国内外から人気の高い海雲台（ヘウンデ）地区。緩やかに弧を描く白砂のビーチは美しく、近年行われた再開発で、ショッピングやエンターテインメントの施設も充実している。大会主会場となる釜山エキシビション&コンベンション・センター（BEXCO）のすぐ側には、売り場面積世界一のデパートとしてギネスに登録された新世界センタムシティーがあり、映画館やレストラン、スパ、アイスリンクなどがそろう。周囲には洗

写真提供：韓国観光公社

第95回ライオンズクラブ国際大会
韓国・釜山
2012年6月22日（金）～26日（火）

●公式行事予定（暫定）

6月22日(金)

10:00～16:00　展示ホール及び大会サービス・センター
10:00～16:00　レオ・ライオン・サミット（釜山ロッテホテル）
18:30～21:30　地区ガバナー・エレクト・セミナー祝賀晩餐会

6月23日(土)

10:00～16:00　展示ホール及び大会サービス・センター
10:00開始　インターナショナル・パレード
14:00～16:00　会員キー賞アイスクリームを囲んでの集い
18:30～20:00　インターナショナル・ショー

6月24日(日)

10:00～16:00　展示ホール及び大会サービス・センター
10:00～13:00　開会式（第1回総会）
14:00～16:00　各種セミナー

6月25日(月)

10:00～16:00　展示ホール及び大会サービス・センター
10:00～12:30　第2回総会
13:00～16:00　各種セミナー
13:30～15:00　メルビン・ジョーンズ・フェロー昼食会

6月26日(火)

7:30～10:30　投票
10:00～13:30　閉会式（第3回総会）
19:00～21:00　国際役員レセプション

2011年11月7日現在

●主要会場

展示ホール及び大会サービス・センター、総会、各種セミナー：
釜山エキシビション＆コンベンション・センター（BEXCO）
＊注釈がない限り、プログラムはすべてBEXCOで開催
本部ホテル：釜山ロッテホテル

■大会登録
国際大会に参加するには大会登録が必要。登録料は普通登録（～5月1日）が130㌦、後期登録（5月2日～現地）が150㌦。国際協会公式ウェブサイト（www.lionsclubs.org）でオンライン登録が出来る。

■代議員資格証明
協会ウェブサイトでダウンロードするか、『ライオン』誌掲載の用紙（42㌻）を使用する。クラブは代議員及び補欠代議員の資格証明書に必要事項を記入、署名し、5月1日までに提出する。これ以降は、各代議員本人が記入済みの証明書を国際大会の資格審査場へ持参する。
●大会プログラムなどの最新情報は協会ウェブサイトで確認を。

写真：竹内裕信／アフロ

練されたレストランやカフェが並ぶ、釜山の最先端エリアだ。
海雲台が釜山の新しい顔だとすれば、昔ながらの顔を見せてくれるのが釜山港に近い南浦洞。二つのエリアは地下鉄2号線で結ばれている。定番ランドマークの釜山タワーと龍頭山公園、少し足を伸ばせば、あらゆる生活用品の店が軒を連ねる国際市場や海鮮市場のチャガルチ市場もある。フェ（刺身）を始めとする新鮮な海鮮、名物のホルモン料理、豚骨をじっくり煮込んだスープのデジクッパ、小麦粉で作った冷たい麺ミルミョン（冷麺はそば粉）など釜山の味覚も気軽に楽しめる。

通常、国際大会の会期は月曜から金曜のウィークデーだが、今回は週末にパレード、開会式が開かれるという日程が組まれており、日本からも多くの参加が見込まれている。

写真提供：韓国観光公社

国際理事だより

■国際理事
高田順一
（富山昭和）

国際理事会はこんなふうに開催しています

国際理事は国際理事会に出席し、協会やライオンズクラブの在り方、理事会方針の改正などの議案を協議することが本来の役割です。そのため、このような質問を受けることがあります。「毎月アメリカの協会本部まで行くのは大変ですね」とか「国際理事になって、もう外国生活に慣れましたか」など。理事会がアメリカ・オークブルックにある国際本部で毎月開催されると思われている方がいらっしゃるのです。

日本を離れる時間が多いのではと、私の体の心配をして頂きありがたい限りです。しかし実際には理事会の開催は年4回です。第1回目は国際大会終了直後。今年はアメリカ・ワシントン州シアトルで、新旧引き継ぎの理事会と新編成の委員会を行い、2日間で終了致しました。

第2回目の理事会は10月に香港で開催されました。香港はウィンクン・タム国際会長の地元ですので、ホスト委員会の皆さんから熱烈歓迎を受けました。理事会終了後にマカオ、深圳にも足を延ばし、すさまじい勢いで発展を続ける中国の一端を見てきました。

次回理事会は4月中旬にアメリカ・サンフランシスコで開催されます。サンフランシスコはタム会長が渡米し起業に成功された街で、強い思い入れがあると伺っています。第2、3回目の理事会開催地は国際会長の意向が反映されるようです。4回目理事会は6月に韓国・釜山国際大会の直前に開催されます。そして大会終了後に次年度の第1回目となるわけです。

第1回を除いて理事会は執行委員会やLCIFの会議を含め、ほぼ1週間ホテルに缶詰め状態で行われます。

理事会では開会式と議案の審議、承認の最終会議は全理事で行いますが、その間は各委員会に分かれての協議となります。私が所属している会員増強委員会は8月号でご紹介した通り委員長、副委員長は2年目理事です。委員は3人とも1年目理事。このメンバーに国際理事会アポインティー、GMT国際コーディネーターと国際本部の担当部長が加わり8人で協議致します。

香港理事会では初日は会員増強委員会のみでの協議でしたが、2日目以降は他の委員会との合同委員会になりました。

PR委員会との合同委員会ではGMTコーディネーターのプロトコールの必要性を協議し、プロトコールの23番目に含めることを理事会に提案することに致しました。

リーダーシップ委員会とはGMT・GLTの評価、クラブ向上プロセス（CEP）の推進について話し合いました。

リーダーシップ委員会、地区及びクラブ・サービス委員会との合同委員会では複合地区ガバナー協議会議長の選任手続きを統一する案件を協議致しました。

最終会議で承認をもらうための委員会報告の作成は、委員長が報告案を読み上げながら委員全員で一字一句を確認していく作業でした。英語の表現は多岐にわたる上に、アメリカ、ヨーロッパで違いがあるなど、時間が掛かりましたが大変勉強になりました。

ライオンズニュースカセット

NEWS CASSETTE

LCIF用途指定交付金で在宅被災者支援

年の瀬を迎えた12月20、21日の両日、宮城県南三陸町（佐藤仁町長：南三陸志津川ライオンズクラブ）の仮設町役場で、在宅被災者約1500世帯に電気カーペットと厚手の毛布が配布された。これは南三陸志津川ライオンズクラブ（小坂克己会長／36人）からの要請に基づき、332-C地区（宮城／中嶋慶次地区ガバナー）が東日本大震災復興支援対策本部（本部長：山浦晟暉国際理事）に申請し、LCIF用途指定交付金を得て実施したもの。

被災地では現在、自宅に残って暮らす在宅被災者や、アパートや借家など「みなし仮設」に入居している人たちへの支援が課題となっている。行政による実態把握が進まず、日本赤十字社のいわゆる「家電6点セット」も配布対象は仮設住宅に限られ、震災発生から長期にわたり支援の網から抜け落ちている被災者が大勢いる。今回の配布に当たっては、南三陸町が仮設住宅に入居していない全世帯にお知らせと申請書を郵送。当日は朝から行列が出来、「厳しい冬を前に助かります」と、うれしそうに支援品を受け取る人たちの姿が見られた。

「物資の配布や炊き出しなど、震災発生当初は避難所単位、その後は仮設住宅単位で行われるため、外部からの支援は在宅の方たちへは届かず、行政の対応も遅れています。『物資どころか情報もない』という声も聞きます。今回、郵送という手段を取ったことで実態調査もある程度出来たと思うので、今後の支援に向けての第一歩にもなったはずです」と、配布に立ち会った小坂会長は話していた。

クラブの意思を示す国際大会での代議員投票

グッド・スタンディングのクラブは国際大会に代議員を派遣し、国際第2副会長と国際理事の選挙、国際会則及び付則改正の賛否投票に票を投じて、クラブの意思を示すことが出来る。国際会則第6条2項は、クラブは会員25人ごと及びその過半数（13人）の端数ごとに代議員1人及び補欠1人を送る資格を持つ（会員数が13人に満たない場合でも、各クラブは少なくとも1名の代議員及び補欠を大会に出席させる権利を持つ）ことを定めている。代議員を派遣するには資格証明手続きが必要。本号42ページの「代議員及び補欠代議員証明用紙」をコピーするか、協会ウェブサイト（www.lionsclubs.org）で同用紙をダウンロードし、必要事項を記入し提出して代議員資格証明を行う。送付期限は5月1日。以降は代議員本人が大会サービス・センターの資格審査会場に用紙を持参し審査を受ける。

なお、6月の釜山国際大会に上程される国際会則及び付則の改正案と、国際第2副会長候補者は、本誌6月号に掲載予定。

オンライン・ビデオで若い世代にアピール

国際協会はツイッターやフェイスブックなどのソーシャル・ネットワーク・メディア（SNS）を活用して、幅広い世代、特に若い世代に向けてライオンズクラブの活動を発信している。そうしたインターネットを活用した取り組みの一つに、オンライン・ビデオの配信がある。国際協会が製作した「ロッキン・ザ・ベスト（Rockin' the Vest）」では、黄色いベスト姿の一団が、リズムに乗って喋るように歌うラップで、ライオンズの奉仕を歌い踊る。ライ

■日本ライオンズ東日本大震災義援金使途内訳

2011年12月28日現在（未監査）
東日本大震災復興支援対策本部

332複合地区　（単位：円）

使途内訳	332複合地区
財政支援金	74,197,305
救援物資代	314,494,843
その他支援金	42,642,905
小計：	¥431,335,053
LCIF特別財政支援100万ドル	80,000,000
ライオンズ運営センター設置補助50万ドル（クラブ復興支援）	36,020,083
小計：	¥116,020,083
MD332使途分　合計：	¥547,355,136…(1)

333複合地区

使途内訳	333複合地区	332複合地区
財政支援金	1,500,000	4,000,000
救援物資代	7,944,255	18,666,245
その他支援金	375,313	2,226,716
小計：	¥9,819,568	¥24,892,961
MD333使途分　合計：		¥34,712,529…(2)

東日本大震災対策本部（サポートチーム）物資支援明細

物資内訳	332,333複合地区
水・食料品	52,630,656
衛生用品・日用品	17,032,536
被服・靴	58,145,013
文房具・学用品	13,730,555
トイレ・冷蔵庫等	3,917,261
軽油・発電機等	254,439
運搬費	9,779,322
サポートチーム使途分　合計：	¥155,489,782…(3)
(1)+(2)+(3)　合計：	¥737,557,447

オンズクラブは年配の男性たちのもの、という固定観念を打ち破ろうというのがビデオの狙い。出演しているのは27・A1地区（アメリカ・ウィスコンシン州）の15クラブ、80人のライオンたちだ。ライオンズと若者の音楽ラップとのギャップがユニークで、非常によく出来たミュージック・ビデオに仕上がっている。このビデオはインターネット動画共有サービス「ユーチューブ（YouTube）」で7万回以上も視聴された。

他にも、世界各地でライオンズクラブの活動を収録した「ライオンズ四季報（Lions Quarterly）」、ウィットに富んだ公共広告（PSA）が公開されており、協会ウェブサイト（www.lionsclubs.org）で視聴出来る。

3月恒例の国連ライオンズ・デーはニューヨークで

ライオンズクラブ国際協会と国連との長年にわたるパートナーシップを祝う第34回国連ライオンズ・デーが、3月16日にアメリカ・ニューヨークの国連本部ビルで開催される。ウィンクン・タム国際会長や、国連のスピーカーによる講演、国際平和ポスタ

国際本部・太平洋アジア課発――

オークブルック通信

世界のクラブとつながる便利なツール

旅行先で地元ライオンズクラブの例会を訪問したい。海外での支援事業について現地のクラブにコンタクトしたい。そんな時に役立つのが、公式ウェブサイトにある「クラブ検索」です。世界中のクラブの会長名や連絡先などが調べられる機能ですが、国際協会にはかなり前から、このクラブ検索が使いづらいという苦情が寄せられていました。そこでグーグルのように、探したい地名や会長名の一部を入力するだけで情報が得られるようなシステムにならないかと考え、新たなクラブ検索が開発されました。

10月に英語版でスタートし、現在は

日本語版でもお使い頂けますが、検索はローマ字入力で行います。検索ボックスに地名などを入れると、該当する言葉が含まれたライオンズクラブ及びレオクラブのデータが表示されます。会員のみならず、ライオンズクラブに興味がある方がこの機能を使えば、地域にあるクラブを簡単に探し出すことが出来ます。また「詳細検索」の機能を使えば、会長名、クラブ名、都市名など複数のキーワードでより精度の高い検索も可能です。

都市名「New York」で検索すると、ニューヨーク市内にあるクラブのデータの他、中古眼鏡の収集場所も表示される

検索結果には、クラブ名、会長名、住所、例会日時と場所が表示され、封筒マークをクリックするとEメールを送ることが出来ます（Eメール・アドレスが登録されている場合）。宛先は表示されないので、会員個人のEメール・アドレスが登録されている場合でも、個人情報を保護したまま一般市民から連絡を受け取れる良いツールとなります。また、クラブがWMMRでアクティビティ報告をしていると、最近のアクティビティがこの画面に表示されますし、Eクラブハウスを設置している場合、クラブのウェブサイトへのリンクも表示されます。

担当課長のジョーによると、クラブ検索には10月10日に英語版の使用を開始して以来、1カ月の間に、149カ国から3万6千件の訪問があり、この機能を使ってクラブ会長宛に2,500件、レオクラブ顧問宛に150件のEメール送信が行われたそうです。

ケニヤのナイロビで開かれた2011年国連ライオンズ・デーで、国際平和ポスター・コンテストのナイジェリアの受賞者による優秀作を披露するタム会長（当時は国際第1副会長）

ー・コンテストの授賞式が開かれる他、希望者は国連ビルの見学ツアーに参加出来る。登録料は65ドル、国連大使との昼食会は55ドル、登録締切は2月10日まで。協会ウェブサイトでオンライン登録が出来る。参加者数には限りがあり、申し込み先着順の受け付けとなる。

会議録

第5回ライオン誌日本語版委員会（12月8日／ライオン誌日本語版事務所／出席者：山浦晟暉、秦従道、高田順一各国際理事、宇田川雄弘、後藤忍、種市一二、高濱正敏、矢口武克、竹本實生、小田邦雄、澁田繁晴各委員、小峰理孝議長、荘英隆、辰巳博昭〈オンライン〉、小柴登司〈オンライン〉各ITアドバイザー）

①ライオン誌日本語版事務所の運営②12月号（10万3100部発行）出来③2012年1月号記事内容の確認④2月号以降台割（案）と主要記事予定⑤その他

第5回複合地区ガバナー協議会議長連絡会議（12月15日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：小峰理孝、井ノ浦義明、宮田謙、萩原光義、岡本正治、新宅元之、迫越正彦、椿幸雄各議長、山浦晟暉、高田順一、秦従道各国際理事）

第Ⅰ部：国際役員との懇談①国際役員からの最新情報②釜山国際大会について③追加提案（秦国際理事） 第Ⅱ部：議長協議①第50回OSEALフォーラム（マニラ）報告②第51回OSEALフォーラム（福岡）③【再々提案】（332複合地区）奨学金プログラム④【再確認】事項⑤各委員会・会議報告の確認⑥ブルーベリー苗木配布（333複合地区提案） 第Ⅲ部：日本ライオンズ連絡事務所運営関係①財務報告②業務報告 第Ⅳ部：その他①報告事項

第5回東日本大震災復興支援対策本部会議（12月15日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：山浦晟暉、高田順一、秦従道各国際理事、小峰理孝、井ノ浦義明、宮田謙、萩原光義、岡本正治、新宅元之、迫越正彦、椿幸雄各議長、中居雅博、高橋晴彦、中嶋慶次、久保田善九郎、野川亘各地区ガバナー、桜井孝一〈グローバル・アシストチーム〉、吉田宗一郎〈監査役〉両オブザーバー）

①LCIFカソンドラ課長から要請された案件（第4回会議から繰り越し分）②332複合地区からの申請③会計報告その他④グローバル・アシストチーム（GAT）関係

新結成／名称変更／解散

■新結成クラブ

岐阜東（山岸恒久会長）▼12月7日結成▼スポンサー／土岐織部

■クラブ名称変更

大阪府・金剛→堺美原

■解散クラブ

（2011年12月）神奈川県・横浜西／宮城県・仙台スカイ／岡山県・作東武蔵／沖縄県・与勝・具志川

訃報

■元国際役員

ライオン中冨正義（佐賀県・鳥栖）

11月23日死去、106歳。66年度302－W3地区（現337－C地区）ガバナー。

ライオン森田實（沖縄）

12月24日死去、78歳。96年度337複合地区ガバナー協議会議長、337－D地区ガバナー。

■献眼

11月＝ライオン長倉誠次（山形県・新庄）／ライオン小木曽進（岐阜県・明智）／ライオン中田直稔（徳島県・阿波勝浦）／ライオン荒木孝啓（広島県・福山ニュー）

LIONS ON LOCATION 世界で奉仕するライオンズ（『ライオン』誌本部版より）

ノルウェー-南アフリカ

南アフリカで生き続ける希望

アパルトヘイト崩壊後のケープタウンに、イテンバ・ラバントゥ（人々の希望）の扉が開かれた。

三つのルーテル教会が協力して運営するこのコミュニティー・センターでは、保育所、幼稚園、職業訓練、無料食堂、菜園、更にはマリンバのバンドまでもが提供された。踏みにじられ、貧困からの脱却を切望する人々はセンターに押し寄せ、結果的にそのニーズを満たすことが出来なくなってしまった。

ノルウェーのライオンズは2008年から救いの手を差し伸べ、サービス拡大に数十万ドルの資金を供給してきた。センターでは自動車整備とソーラー技術に関するカリキュラムを開始し、コンピューターのクラスを継続出来るようになった。ライオンズは自己向上への燃えるような欲求を満たしている。

「ケープタウンのライオンズによれば、これほど熱心な生徒を見たことがないそうです。貧しい環境に育った若者はチャンスを手にすると、自分自身と家族のために必ず成功につなげようとするのです」

ハスラム ライオンズクラブのパー・ドービング会長は語る。イテンバへの支援は104-H地区の合同事業で、ノルウェーから100人近くのライオンズと家族がセンターを訪れている。きっかけは2007年、ハスラム ライオンズクラブのビャルテ・ニゴール・ビエルンダル元会長夫妻が、このセンターで4カ月間のボランティア活動を行ったこと。ハスラム ライオンズクラブと姉妹提携を結ぶケープタウンのトカイ ライオンズクラブが、センターの監督に手を貸している。

ノルウェーのライオンズは、支援を更に3年後まで続ける計画だ。その頃までには、受講者に業務を担当させ、政府による何らかの支援を得ることで、職業学校の自給体制が整っているはずである。

現在イテンバでは、HIV／AIDS患者に治療を提供しているが、それはライオンズの大規模な支援が人々の生命を救うことの証明である。ライオンドービングによれば、以前は死を待つためにホスピスに向かった人々が、今では治療、投薬、社会的支援を求めてセンターを訪れている。

インド

疲れきった巡礼者に安らぎを

毎年恒例の「ラムデブ・フェア」は、インドのヒンドゥー教徒とイスラム教徒の両方が敬う15世紀の聖人、ババ・ラムデブをたたえる日だ。数千人の熱心な崇拝者たちが、ババ・ラムデブが建立した寺院へ向かって数百マイルの道のりを裸足で歩く。

その困難な旅路で、人々は足や関節の痛みを始めさまざまな体調不良を引き起こす。そこでジョードプル・マルドハラ ライオンズクラブは救護テントを設置し、医師のライオンたちが治療に当たっている。この医療チームには外科、整形外科、婦人科の医師らが含まれる。昨年は急性下痢症に苦しむ35歳の女性を救った。「彼女の脈はとても弱く、体はすっかり冷えきっていました。彼女を助けることが出来て、私たちは大きな満足感を覚えました」と、クラブ会長で小児科医のライオンサンジーブ・ジャインは話す。

巡礼者の体を癒やすため、足を休められる浴槽も用意している。50人分の浴槽は、機械技師のライオンが手作りした。更に、電気技師のライオンが80台分の携帯電話を一度に充電出来る態勢を整えている。ライオンズは安全な飲料水と医薬品を無料で提供した上に、民族音楽の生演奏で巡礼者たちを元気づけた。

pick up
ピックアップ

メンター・プログラム

新会員を育て、真の仲間として クラブに定着させるために

入会して例会に出たものの、使われている用語もよく分からないし、周りは知らない顔ばかりで聞くに聞けない。何だか雰囲気にも溶け込めず、次第に足が遠のいていく……。本誌調査によれば、昨年度中に退会した会員の26％が入会3年未満で、4割が5年未満だった。新会員をクラブに定着させる鍵は、適切な教育と良好な人間関係の構築だ。その有効なツールとなるのが、国際協会が10年前から取り入れているライオンズ・メンター・プログラム。日本では数少ない導入クラブの一つ、高知桜ライオンズクラブでその成果を取材した。（取材／河村智子）

始まりは地区ガバナー方針

「メンター」という言葉は、近年ビジネスの分野で注目されている。単に知識を教えるだけでなく、信頼される助言者であり、見本となる存在のことだ。ライオンズ・メンター・プログラムは基礎編と上級編の二つに分かれ、メンターとその指導を受ける「メンティー」がペアになり課題に取り組んでいく。基礎編ではクラブの歴史やアクティビティ、組織などの基礎的な知識を学び、更にクラブ理事会や他クラブの例会訪問、地区レベルの会議や大会に参加する体験学習を行う。上級編は組織の指導者としてのスキルを磨く内容。本来は未来のリーダー育成を目指すためのプログラムだが、特に基礎編はリテンションに効果的だ。

高知桜ライオンズクラブ（山本典子会長／39人）がこのプログラムを導入して、今年で3年目になる。2009・10年度の武久一郎336・A地区ガバナー（当時）の方針の一つにメンター・プログラム推進があった。次期クラブ三役オリエンテーションでプログラムを知った次期会長のライオン二宮邦江がクラブに持ち帰り、1年目はまず、入会5年未満の会員をメンティーにスタートし

た。以後、新たに入会した会員にはメンターが指導に当たることにしている。これまでに13人がメンティーとなり、現在も3人が進行中だ。

今年度クラブ会長のライオン山本は、クラブのメンティー第1号の一人。当時はプログラムそのものをあまりよく理解していなかったが、入会から5年近くが経っても、知らずにいたことがたくさんあるのに気付いたという。もう一人の第1号メンティーで、クラブ幹事を務めていたライオン井上祐鳳は次のように振り返る。

「あの頃は、大きな池に放り込まれて泳ぎ方も分からないという感じでした。メンターがまず教えてくれたのは、組織の中でクラブがどこに位置しているかということでした。大きな広がりのある国際協会の中でのクラブ、そして自分の立ち位置というのがよく分かりました」

ライオン井上のメンターを務めたチャーター・メンバーのライオン細木膺子は、自身も多くのことを学んだと言う。

「人に教えるには自分がしっかり調べておかなければいけないし、よく理解して経験を交えながら伝えることは大変ですが、勉強になります。会員歴が長い会員でもライオンズをあまりよく知らない人がいて、中には一緒に勉強

したいと、隣で聞いている人もいます」

メンターを務めるのは元クラブ会長など経験豊富な会員だ。新会員のスポンサーがメンターを務めることもあるが、スポンサーに十分な経験がなければ、クラブ以外での付き合いや相性を考えながらクラブ会長が指名する。

学習の時間はメンターとメンティーが相談して決めるが、高知桜ライオンズクラブでは主に例会前の約1時間で行っているペアが多い。例会前、資料を手に語り合うメンターとメンティーの姿は、他の会員にも前向きな影響を与えている。

「1対1」のコミュニケーション

メンター・プログラムの最大の特徴は、「1対1」で取り組むところにある。地区が開催する新会員研修のように、一度に大勢の受講者を対象にするセミナーとは大きく異なり、互いに尊重し敬意を抱きながら、時間を掛けてきめ細かな指導を行うことが出来る。

昨年度、メンティーとして学んだライオン横山玲子は、マンツーマン指導のメリットを次のように話す。

「地区が開催する新会員スクールにも参加しましたが、例えば『ライオンズ必携のこのページにありますから読んでおいてください』と言われ、読んでみてもなかなかピントこないし、質問しにくいところがあります。お互いの顔を見ながら聞いた話は自分の中に残るものです。後になって、これはあの時にメンターが言っていたことだと、今でも自然に頭に浮かんできます」

例会前、テキストを使って指導するメンターのライオン市村佳子（左）とメンティーのライオン阪本綾子。例会日に都合が合わない時は別に時間を設けることもある。「2人なので何でも気軽に相談し合えて、日程調整もしやすい」とライオン市村

親密なコミュニケーションがとりやすいというメリットもある。

「入会間もない人はすぐには会の雰囲気に慣れないものですが、1対1で接するメンターとはすぐに親しくなれます。メンターを通じて他の会員とも打ち解けやすくなるので、入会して早い時期に行うことは、とても意義があると思います」（ライオン井上）

「知識を得るだけではなくて、自分が困っていること、悩みを何でもメンターに相談出来るという良さがあります」（ライオン五島博子）

新会員が早い時期にクラブに溶け込み、親密な人間関係を築くことが出来れば、退会へ向かう気持ちは起こりにくいはずだ。

「クラブになじんで愛着を持ってもらうことが出来れば、例えば家の事情で時間が取れなくなった時、一時休んでも籍は置いておこうという気持ちになります」（ライオン細木）

これまでにメンティーとなった13人のうち、3人は仕事上の理由などで退会したが、クラブではプログラムに確かな手応えを感じているようだ。

「金の卵」を大切に育てるために

プログラムの効果を実感したメンバーたちは、周辺のクラブにもその成果を発信している。昨年度ゾーン・チェアパーソンを務めたライオン細木は、プログラムがひいては退会防止につながることをゾーン内のクラブに説明し、導入を勧めた。しかし男性中心のクラブからは「堅苦し過ぎる」「自然に覚える

メンター・プログラムについてよくある質問

Q ライオンズ・メンター・プログラムの目的は何ですか？

会員一人ひとりが自分の地域と世界により良く奉仕するという目標を達成するため、クラブ及びそれ以上のレベルで活躍出来る能力あるライオンを育てることにあります。

Q メンター・ライオンとは？

経験豊かなライオンで、メンティーが経験を通じて自信や知識を得ていく過程を支援します。目標は一人の会員を資質豊かで有能なライオンに育てることです。

Q メンティー・ライオンとは？

ライオンとして奉仕する能力を高めるために助言を得たいと願う会員ならば、誰もがなることが出来ます。メンターの指導と助言の下、その技術と自信を高め、学んだことを役立てていきます。

Q メンティーはメンターから何を得ますか？

メンターは次のようなものを提供します。激励、支援、率直な意見、賢明な知識と助言、示唆、機会や可能性についての情報、目標の設定と達成への支援、ネットワークや人脈の開拓、ライオンとしての見識。

Q メンターはメンティーに何を求めますか？

メンティーは次のような資質を示さなければなりません。学ぶ意欲と継続的努力、柔軟性、オープンな心、目標への集中力、自己研鑽への責任感、フィードバックを受け止める力、物事を別の角度から見る能力、新しいことに取り組む意欲。

Q 誰がメンターを任命するのですか？

クラブ会長です。スポンサー、もしくはこの役を喜んで引き受ける経験豊かなライオンが任命されます。

Q メンターとメンティーは同じクラブの会員でなければなりませんか？

同じクラブの会員であることが望ましいでしょう。メンターは常にメンティーを指導し、支援することが出来なくてはなりません。同じクラブであれば、それが最も行いやすいと言えます。

Q スポンサーとメンターはどう違うのですか？

スポンサーは会員候補者が倫理的、社会的、財政的に責任を果たす能力があり、ライオンズクラブの目的を支持し、クラブの良き会員となることを保証する存在です。すべての会員は有望な新会員の招請に努めるべきですが、すべての会員が新会員のメンターとなるだけの時間と経験を有しているとは限りません。メンターは、メンティーの自信と知識を高め、育てることに喜んで取り組み、またそれを行うだけの能力が必要です。知識だけでなく、情熱とやる気と意欲を示すことが重要です。人は理性によって指導され、情熱によって啓発されるものです。メンターはメンティーの成長への責任を担うことになります。

＊プログラムのガイドは国際協会公式サイトでダウンロード出来ます。

から必要ない」という否定的な反応がほとんどだったという。

確かにプログラムをマニュアル通りに忠実に行おうとすると、難しく取っつきにくいと感じるかもしれない。しかしクラブが取り組みやすいように運用すれば、そう難しいことはない。例えば、マニュアルでは基礎編は入会から6カ月で終えるよう奨励しているが、高知桜ライオンズクラブでは開始時期や期間にはこだわらずに、メンティーが取り組みやすいタイミングを見計らって行っている。

今年度リジョンの会員委員を務めるライオン五島は、他のクラブでもプログラムを生かしてほしいとの意気込みで、リジョン内クラブの会員理事に資料を配り、会合で説明を行っている。その結果、高知北ライオンズクラブが取り入れて、現在4組のペアが活動中だという。

全国のクラブの多くが、会員の高齢化という問題を抱えている。高知桜ライオンズクラブも例外ではない。初代会長のライオン松﨑淳子は言う。

「人は年代によって文化が違います。だからこそ、私たち年輩の者が意識的に頭を柔らかくする努力をしなければなりません。この大変な時代に入会してくださる若い方はクラブの金の卵で、大切に育てていきたいと思います」

第24回国際平和ポスター・コンテスト

テーマ「子どもたちは平和を知っている」・複合地区レベル最優秀作

330複合地区：髙橋彩香（12歳）
スポンサー・クラブ：埼玉県・越谷平成
「今年、日本は震災があって世界中の人たちに助けてもらいました。ひまわりは放射能を吸収してくれる花と聞きました。これから世界が平和になり、ひまわりと笑顔がいっぱいになりますようにと願って描きました」

331複合地区：内田莉子（11歳）
スポンサー・クラブ：北海道・函館北斗
「世界中の子どもたちが一人ひとり平和を信じていれば、いつか必ず地球は平和に包まれるということを願って描きました。世界中の人々が毎日笑顔でいられることがいちばんの平和だと私は思います」

今年もまた「国際平和ポスター・コンテスト」が開催されている。毎年平和に関する新しいテーマが設けられ、それを芸術的に表現することを通じて、子どもたちに平和について考える機会を提供するものだ。世界中から11～13歳の子どもたち35万人が参加する。

ここで紹介している8作品は、日本の各クラブ、地区、複合地区レベルの審査を勝ち抜き、最終段階の国際レベル審査に進んだ秀作である。最終審査が行われるのはアメリカ・オークブルックの国際本部。メディア、芸術界、文学界、青少年組織の面々から成る国際審査員団が選考に当たり、全世界から寄せられた作品の中から最優秀賞1点と優秀賞23点が決定されるのである。

国際審査の結果は2月初旬に入賞者に通知される。コンテストの授賞式は3月、ニューヨークの国連本部で開かれる国連ライオンズ・デーの中で催され、最優秀賞受賞者は家族2人とスポンサー・クラブの会長と共にこれに招待されて、賞金5千ドルと記念の盾が贈呈されることになる。また国際大会では受賞作品24点の展示と、最優秀賞受賞者の直筆サイン入りポスターの販売も行われるので、釜山大会に参加される方は立ち寄ってみるとよいだろう。24作品はこの後、1年間をかけて全米各地の子ども美術館などを回る展示の旅に出る。

国際協会公式ウェブサイト（www.lionsclubs.org/JA/index.php）には最優秀賞及び優秀賞作品が掲載される他、コンテストについての詳しい情報や歴代の最優秀作品を見ることも出来る。

次回コンテストの応募キットはライオンズクラブ国際協会日本事務所（TEL：03・3494・2931　FAX：03・3494・2933）で販売される。ふるって参加しよう！

334複合地区：中川優太（13歳）
スポンサー・クラブ：静岡県・磐田
「この作品を通して、いろいろな国で分かれているんじゃなくて、地球が一つの国であり、力を合わせて争いをなくし、みんな仲良く平和に暮らしていけたら、との思いを伝えたい」

332複合地区：佐藤礼菜（13歳）
スポンサー・クラブ：山形県・酒田
「世界平和と人を幸せにしてくれる花で『平和の花束』をイメージし、国旗を使いました。地球が一つの『平和の花束』になれることを願い、この作品を描きました」

336複合地区：福尾静花（13歳）
スポンサー・クラブ：岡山県・笠岡東
「平和を願って、世界中のみんなが仲良く出来たらいいなと思って描きました」

335複合地区： 植田惇介（13歳）
スポンサー・クラブ：兵庫県・神戸須磨
「戦争や貧困の無い、世界のみんなが幸せになる地球になってほしい」

333複合地区：大谷萌々子（12歳）
スポンサー・クラブ：千葉県・酒々井
「世界中の人々が国や人種を超えて仲良くしていけたらいいなあという願いを込めました」

337複合地区：謝花愛海（11歳）
スポンサー・クラブ：沖縄県・浦添てだこ
「世界中が平和で戦争がなくなればいいなと思ってこの絵を描きました」

CLUB REPORT

クラブ・リポート

●当欄はライオンズ、レオ、ライオネスの活動報告を扱います。投稿要領は54ページ参照

東京ライオンズクラブ

マニラ貧困地区の子どもたちに学びの場

東京ライオンズクラブ（山本和夫会長／41人）が、フィリピンのマニラ・ホストライオンズクラブのスポンサーで結成されてから来年3月で60周年。人で言えば還暦という節目の年に、スポンサー・クラブへの恩返しの気持ちを込めて、マニラ市の低所得家庭の児童を対象にした教育施設「デイケア・センター」の拡充に取り組んだ。両クラブはこれまでにも合同で児童の福祉事業を実施している。

フィリピンには貧しさのため路上やゴミの山で働き、教育を受けられないまま成長する子どもたちが多く、深刻な社会問題となっている。マニラ市はそうした児童に教育の機会を与える拠点として、貧困層の多い地域にデイケア・センターを設けている。今回の事業は市内で最も貧しく、また治安が悪いとされているトンド地区パローラにあるセンターを拡充し、学習資材を提供するというものだ。東京ライオンズクラブが100万円、マニラ・ホストライオンズクラブが20万円を拠出し、LCIFから国際援助金1万ドルの交付を受けて、事業費は総額200万円。机、いす、文具等の備品はすべてマニラ・ホストライオンズクラブが現地で調達し、完成後の施設の運営・維持管理も同クラブが担当することになる。

昨年11月のマニラ・フォーラム開催に合わせて、東京ライオンズクラブの山本会長以下7人がマニラを訪問。25日午後のフォーラム開会式を前に、マニラ市庁舎でアルフレッド・S・リム市長の歓迎を受けた。その後、パローラの住民たちが見守る中で起工式に臨み、センター内のグラウンドにリム市長、山本会長、守時光暉幹事が植樹を行った。起工式の間、マニラ市長や山本会長のあいさつを神妙な顔で聞いていた子どもたちは、式が終わるとグラウンドにある遊具へと走り寄り、元気いっぱい遊び始めた。拡充されたセンターは、劣悪な環境に生まれ育った彼らが、子どもらしく遊び、学べる場となるはずだ。

一行は更に、市内の別のデイケア・センターを訪れ、子どもたちに一足早いクリスマス・プレゼントを手渡した。

（取材／河村智子）

岐阜県・羽島、鹿児島ライオンズクラブ

姉妹クラブが支援の輪広げて被災地へ

岐阜県・羽島ライオンズクラブ（田中寿一会長／57人）と鹿児島ライオンズクラブ（櫻井輝雄会長／61人）は姉妹盟約50周年の記念事業として、東日本大震災で津波被害を受けた青森県八戸市の10小学校、2保育園にライオンズ文庫を寄贈した。両クラブは260年前、木曽三川の「宝暦治水」に尽力した薩摩義士の顕彰事業が縁で結ばれ、交流を続けている。今年4月には、羽島市で50周年記念式典を予定していたが、東日本大震災の発生を受けてこれを中止。式典費用を被災地支援に役立てようと考えた。この支援の輪は大きな広がりを見せ、鹿児島ライオンズクラブの友好クラブである韓国の鳳鳴ライオンズクラブ、台湾の台北北區ライオンズクラブからの義援金、また鹿児島ライオンズクラブが一昨年、結成50周年記念事業として透析機7台を贈ったタイ北部ナーン県の人々からも40万円が寄せられ、総額600万円の資金が集まった。

被災した子どもたちに「ライオンズ文庫」を届けたいという羽島、鹿児島両クラブの申し出は、やはり鹿児島ライオンズクラブの友好クラブである青森県・弘前ライオンズクラブを介して、今期八戸市に置かれている332・A地区キャビネット（中居雅博ガバナー）に伝えられた。332・A地区は八戸市と協議の上で直接津波の被害を受けたり、被災した児童の通う小学校と保育園を寄贈先に選定。同地区からも100万円が拠出され、各校の希望に添って選ばれた本や学習資材、本棚が贈られた。

12月21日、羽島、鹿児島両クラブの会員4人は寄贈先の一つである多賀小学校を訪れ、小林眞八戸市長も出席して贈呈式が開催された。児童代表の関川みなみさん（6年生）は「最近、やっといつも通りの生活が出来るようになり、じっくりと大好きな本が読めるようになりました。頂いた本はみんなで大切に読みたいと思います」と感謝の言葉を述べた。（取材／河村智子）

栃木県・足利西ライオンズクラブ

岩手県大槌町を訪ねて

イラスト／篠田和夫

足利西ライオンズクラブ（25人）は10月に開催したゴルフコンペにおいて、皆様から多大な浄財を頂いた。これを11月24日、黒磯、大田原両ライオンズクラブのメンバーと共に、岩手県大槌町へ持参した。

大槌町は県内でも特に被害が大きく、たくさんの方が仮設住宅で暮らしている。ボランティアも大勢いるのだが、その方々の寝泊まりする施設が不足している状況である。今回はその施設を作るための資金の一部にと援助させて頂いた。

当日は町長を始め多くの方に出迎えて頂き、いささか恐縮してしまった。片道600キロの長旅だったが、被害に遭われた方々の話を直に聞いて、とても貴重な経験をしたと思っている。まだ災害の爪痕が残る中で、完全復興に向けて着実に前進している町並みや人々の力強さを肌で感じ、こちらの方が勇気付けられた。

また、当クラブでは同じ岩手県に対して2千円程度の毛布を可能な限り寄贈しようと計画している。既に2人のメンバーが50枚を寄贈した。

これからも困った時はお互い様という相互扶助の精神の下で、微力ながらお手伝いさせて頂こうと考えている。

当地足利は詩人で書家の相田みつお氏の故郷である。彼の言葉にある通り、被災された方々はまさに「いまからここから」という思いで一歩一歩進んでいらっしゃることと思う。私たちも本当に必要なことを見極めて、共にがんばっていきたい。

（会長／新井孝）

福島県・田村ライオンズクラブ

ありがとう!!　イタリアからの復興支援

田村ライオンズクラブ（36人）とイタリアのアスティ・ホスト ライオンズクラブは共同で、都路こども園（助川富士子園長）の園児たちに絵本やビデオなどを贈り、同園に「アスティホスト・たむらライオンズクラブぶんこ」を設立した。福島原発事故の警戒区域と旧緊急時避難準備区域で、除染も進まずいつ戻れるか見通しも立たず、屋外での活動が制限されている子どもたちを支援する事業である。

原発事故発生のニュースが全世界を駆け巡ったその頃、当クラブのホームページを見たという齋藤泰弘京都大学名誉教授から、福島県民の避難状況、避難所の生活、放射線汚染状況等について問い合わせのメールがあった。更に

「私の知人にイタリアのライオンズ・メンバーがいる。クラブ会長始め皆が大変心配しており、赤十字やライオンズの財団にお金を送るだけでなく、福島の子どもたちのために目に見える支援をしたいという。何か互いに協力出来ないだろうか」

という申し出を頂いた。齋藤さんを通じて協議し、同事業が決定した。

11月14日、現在の仮園舎で、助川園長と園児代表へ絵本等を贈呈。園児たちは最初、突然の知らない大人たちの訪問に緊張交じりの表情だったが、一緒にDVDを鑑賞し、サプライズとしてちょっと早いサンタクロースからおもちゃとお菓子のプレゼントを渡されると、笑顔がいっぱいになった。

同園が仮園舎から一日も早く再開出来ることを祈る。がんばろう、フクシマ!!

この絵本80冊、大型絵本6冊、紙芝居17冊、DVD71本、ビデオ10本は、他の保育所・幼稚園にも貸し出され、多くの児童たちに活用される。

イタリアのライオンズ・メンバーと、ご尽力頂いた齋藤名誉教授に感謝。そして日本ライオンズの10万人強の皆様、今すぐに出来る復興支援、福島の風評被害の払拭にご協力を！

（会長／宗像倉義）

新潟県・三条イースト ライオンズクラブ

チャーター・ナイト記念アクティビティ

三条イースト ライオンズクラブ（樋口洋平初代会長）は三条ライオンズクラブのスポンサーで、親クラブからの転籍会員10人と新会員17人で結成、昨年6月18日に結成会を行ったばかりの新しいクラブだ。

更に1人を加えた28人で9月28日にチャーター・ナイトを開催し、これに先立つ8月6日には、チャーター・ナイト記念アクティビティを行った。三条市の夏祭りに「東日本大震災 福島復興祈願納涼フェスティバル」と銘打ち、当市に避難された福島県民の方々約300人を無料招待して、三条市民、クラブ・メンバー、家族との親睦、交流事業を実施したのだ。3日間続く祭りの中日で、この日は商店街夜市や三条夏神輿が催される。

当日は朝からメンバーが会場のいす、テーブル、屋台の設営に奔走。生ビール、ジュース、かき氷、焼そば、焼肉等を用意した。日が暮れて、各避難所から福島県民の方々が無料送迎バスで来場した。

ゲストでタレントのせんだみつおさんと國定勇人三条市長との楽しいミニ・トークショーや、新極真会新潟支部（古川章支部長）の小学1年生から大人まで約30人による迫力のある空手の演武・試し割り、地元のアマチュア沖縄民謡歌手・きよ里さんの三味線弾き語り等で、集まった約500人は大いに盛り上がった。終了予定時刻を1時間延長、用意した600人分の食材もすべて無くなり無事終了した。

多数の新会員がいる中、クラブ・メンバー間の交流はもとより、家族、避難者、三条市民との貴重な、かつ楽しいひと時を過ごせたと思う。

最後に、被災地の1日も早い復旧復興を会員一同、心よりお祈りする。

（PR委員会）

大阪府・堺登美丘ライオンズクラブ

東日本大震災被災地訪問の報告

10月24～25日、高橋祥治元335複合地区議長、大井光男会長らと宮城県石巻に赴いた。

杉山正夫元332複合地区議長の事業所で支援の趣旨をお伝えすると、現在、米・味噌・暖房器具が足りない、出来れば現地で購入したく、その資金を希望されるとのことだった。

被災地を案内頂くと、のどかな田園の町は跡形もなく、田畑には海水がたまり、風光明媚なリアス式海岸の漁港、家、工場は基礎だけが残るがれきの山。かつては大漁でにぎわい、人の談笑があっただろうと想像する時、涙が止まらなかった。

津波で流される家、助けを求める人々、高台でその様子を見た子どもたち。「地獄です」と杉山元議長は顔を曇らせた。

仮設住宅には断熱材も入っておらず、この冬をどう過ごされるのか。行政のふがいなさ、業界の配慮の無さが腹立たしい。

避難の途中で94人の幼い命を失ってしまった大川小学校には鎮魂の碑が建っていた。その話を聞いた我々は言葉もなく、ただただ手を合わせ御霊安らかなれと祈り続けたのである。

この困窮の折に、略奪・窃盗・詐欺が多く起こっているという。卑劣極まりない、おぞましいことである。

我々は改めて、津田祐司335-B地区ガバナーの「我らライオンズクラブが1世紀近くにわたり培ってきた人道的奉仕と友愛を今こそ示そう」という基本方針を遂行せねば、そして日本国民として同胞として、より一層の支援活動を続けなくては！と思った。

今回何かと尽力頂いた杉山元議長、阿部浩ゾーン・チェアパーソンにお礼を申し上げる。（東日本大震災被災地支援特別委員長／山本芳宏）

愛知県・江南ライオンズクラブ

市民の集いでウィ・サーブ

　江南ライオンズクラブ（90人）は毎年、地域社会への貢献と市民への感謝の気持ちを込めて、市民の集いを開催している。
　26回目の本年は、会長方針の一つである青少年健全育成の一環として、市内10校の小学校高学年の児童とその保護者900人を招待して、科学現象を視覚的に分かりやすく解説する「米村でんじろうおもしろサイエンスショー」を企画した。近年、児童生徒の理科離れが深刻な問題となっており、この機に生徒たちが少しでも理科に興味を持ってくれることを願って企画したものである。
　当日は一般の入場者を含め、1400人収容の会場が満席となる盛況であった。中でも児童たちが参加する科学実験では、活発な子どもたちの歓声で会場は大いに盛り上がった。
　この事業ではまた、東日本大震災で遺児となった子どもたちへの応援の機会として、入場者に募金を呼び掛けた。その結果、当初の予想額を大幅に上回る44万円余が集まり、あしなが育英会の「あしなが東日本大地震・津波遺児募金」に寄贈することが出来た。
　なおショーに先立ち、平和ポスター・コンテストの入賞者7人への賞状と記念品の授与を行った。会場ロビーには入選作品を掲示し、入場者に世界平和について考え、その重要性を再認識してもらう機会とした。また受賞者には、でんじろう先生の直筆サインが記念に渡された。
　江南ライオンズクラブは今後も同様な企画で地域社会に貢献し、感謝の心で「ウィ・サーブ」を実践することを考えている。

（会長／武馬宏祐）

兵庫県・福崎サルビア ライオンズクラブ

親睦旅行で遠野を訪ねる

　福崎サルビアライオンズクラブ（20人）は20周年を迎えるに当たり、初めての親睦旅行を企画した。「どうせ出掛けるなら東北へ！」と、10月17～19日、岩手県を訪れた。福崎町に生家がある柳田國男の『遠野物語』にちなみ、遠野ライオンズクラブに合同例会を申し込んだ。例会には遠野市長にまでご臨席頂き恐縮したが、楽しい思い出が出来た。
　そして「被災地の皆さんと楽しいひと時が過ごせることをしよう！」と、大槌町桜木町のおさなご幼稚園でのお茶会と、福祉会館での演芸会を計画した。
　幼稚園では、しつけがよく行き届いた園児たち。きちんとお座りして「おいしーい！」。
　演芸会は地元の奥さんの飛び入り参加もあり、とても盛り上がった。反面、ご主人が津波に流されたという方が何人もおられ、言葉もなかった。帰り際に握手をすると私たちの手をぎゅーっと握り、ポロポロ涙を流され、「ありがとう」と。地元の方も私たちも一緒になって涙、涙。ひと時でも和んでもらえただろうか。
　これまでも冷蔵庫や洗濯機、盆踊り用に浴衣や下駄を送ってきたが、今回は自分たちを届けたというわけだ。今事業では、橋本維久夫335・A地区災害復興支援委員長に一方ならぬお世話になった。東本将文ゾーン・チェアパーソンと共に、現地へも同行して頂いた。
　更に11月5日の福崎町産業祭では東北支援物産展を実施。遠野ライオンズクラブの山口渉幹事の紹介で遠野市のりんご、南三陸志津川ライオンズクラブのライオン及川善祐から及善商店の笹かまぼこ、大槌町から海産物を直送して頂き、現地の写真を紹介しながら販売した。
　20周年記念事業はメンバー一丸となり、まさに会長テーマ「相思相愛（おもいやり）」通りになった。今後もこの感動を糧に活動していきたい。

（会長／藤川百合子）

静岡県・浜松葵ライオンズクラブ

小学生ソフトボール大会開催

チャーター・ナイト40周年に向けて、地域に喜んでもらえるアクティビティを模索中の浜松葵ライオンズクラブ（木村静香会長／30人）。

今年度はライオン引馬久典から、静岡県小学生ソフトボール協会・育成会が当クラブのバックアップを希望しているという情報を得、例会にて全員賛成で支援を決めた。育成会役員の方々のモチベーションの高さ、熱心さ、そして何よりソフトボールを通じて子どもたちの健全育成を目指すという理念が我々ライオンズと共通するからだ。

地球の明日を担う青少年の健全なる育成は、大人がすぐにでも行動を起こさなければならない重要項目の一つである。人はスポーツを通じて、「ルールを守る」「チームワークを大事にする」「技術を磨き上を目指す」といった人生の基本姿勢を自然に体得することが出来る。

8月27、28日の両日、天竜川河川敷グラウンド3面を使い、愛知県と浜松市内・市外の計24チームを迎え、選手、監督、先生、父兄、ライオンズ・メンバー総勢約500人のにぎやかな第1回大会を開催した。木村会長による始球式は爆笑を呼ぶハプニングとなり、明るく楽しい雰囲気の中で試合は行われた。

大人と子ども、地域の方々との出会いと交流は我々が期待した以上の奉仕活動となった。同大会をバックアップ出来たこと、メンバーが結束して「ウィ・サーブ」にまい進出来たことに感謝。これからも同大会を通じて、ますます強い絆を育てていきたい。

青少年健全育成、万歳！

（ゾーン・チェアパーソン／長谷川勝）

東京法政ライオンズクラブ

ジュニア空手道大会開催

11月13日、東京法政ライオンズクラブ（笠井郁夫会長／29人）は、「第1回東京法政ライオンズクラブ杯ジュニア空手道大会」を、法政大学多摩キャンパス総合体育館にて開催致しました。当クラブは法政大学のOBをメンバーとするユニバーシティー・クラブであります。

当日は好天に恵まれ、ご父兄、空手審査委員、選手の子どもたち、一般参加の応援者、法政大学の関係者、そして大会開催運営者、支援者を含め、約450人の参加となりました。大石誠330-A地区ガバナー、河合悦子前地区ガバナーをお迎えし、盛大に開催することが出来ましたことをご報告致します。

思えば昨年3月27日に予定しておりましたこの大会は、3月11日の東日本大震災の発生により延期を余儀なくされました。

あれから9カ月が経ちましたが、まだまだ復興には時間が掛かると思います。被災された方々には謹んでお見舞い申し上げます。

ここで負けてはいけないと、クラブ内で何度も話し合いが持たれました。そして、この大会を企画しました当クラブ・メンバーと関係者各位の熱意により、ここに開催する運びとなりましたこと、本当にうれしく思っております。（複合地区エクステンション委員／水上久忠）

山口県・岩国ライオンズクラブ
障害者センターの仲間と共に

２００８年11月、岩国ライオンズクラブ（38人）は結成50周年を迎え、故工藤延孝前会長（当時）の発案で、記念事業として岩国市障害者センターへの奉仕活動に取り組み始めた。センター利用者の中には生まれながら寝たきりの重度の方もあり、外出も困難だという話を聞いて、利用者や家族をどこかにお連れすることがテーマとなった。

第1回は「徳佐リンゴ狩り・バーベキュー」へ。一生懸命声を絞り出し述べてくださったお礼の言葉に、会員一同感激した次第である。

その後、下関水族館・海響館、広島マツダスタジアム、ぶどう狩りと回を重ね、今年は利用者の希望が多かった、8月にリニューアル・オープンしたばかりの宮島水族館・みやじマリンを見学した。毎年、参加された方々が本当に喜び、私たちにすばらしい笑顔を向けてくださることに、アクティビティ本来の姿を実感している。

さて、この交流をきっかけに生まれたもう一つの活動が「ハチドリ基金」である。ライオン玉田隆一郎（錦病院理事長）の後輩である川原尚行医師は、NPO法人ロシナンテスを立ち上げ、アフリカのスーダンで医療活動に従事されている。当クラブでは彼の話を聞き、内戦による貧困に苦しむスーダンの子どもたちにサッカーボールを寄贈した。これに障害者センターの利用者が賛同し、「わずかだが私たちが出来る範囲で協力させてほしい」と積み立てをして、車いすで事務局まで届けてくれたのである。今では川原医師が帰国された折には出来るだけお招きし、利用者の方と共に当クラブからの基金を直接贈呈している。

今出来る小さな実践と、仲間の輪を広めていくことの大切さを実感している。

（会長／田中篤治）

東京スバル ライオンズクラブ
盲導犬育成募金活動

盲導犬育成募金活動は東京スバルライオンズクラブのメーン・アクティビティだ。会員数14人と少数ながら犬好きが多く、労働奉仕を主目的に活動している。

盲導犬は目が不自由な人をリードして障害物を避けたり段差や角を教えたり、安全な歩行の手伝いをする。道路交通法や身体障害者補助犬法で、電車やバスに乗ったり店などに入ることが認められている。犬は生き物なので食事やトイレの世話、シャンプーやブラッシングなど大変なこともある。でも盲導犬はユーザーにとって、歩行介助だけでなく温もりも与えてくれる、大切なパートナーであり家族の一員なのだ。

しかしながら我が国では盲導犬の数920頭と、必要とされる3千頭にまだまだ足りない。また、盲導犬1頭を育成するには300万円程掛かるそうだが、公的な助成はなく、その費用は寄付や募金活動によって賄われているのが現状だ。

我々は新宿、中野を中心に活動しているが、他クラブと合同で東京ビッグサイトのような国際見本市会場まで足を運ぶこともある。募金活動をしていていつも感じるのは、若者の中に盲導犬育成に深く理解を示してくれる方がたくさん居ること。本当に頭が下がる。

11月20日にはJR新宿駅西口で、日本盲導犬協会のボランティアの方と雌のラブラドールと共に募金活動を実施した。終日活動し、多額の募金を頂いた。

これからも目の不自由な方々が一人でも多く、盲導犬と共に行きたい時に行きたい場所へ行かれる、安全・安心・快適な毎日を過ごせるよう、我々は一丸となって注力していく所存である。

（会長／道橋和志）

334-D地区第1リジョン第2ゾーン（富山県）

ホクリクサンショウウオのビオトープを守れ

第2ゾーンの7クラブ（富山セントラル、八尾婦中、富山神通、大山、富山西、富山昭和、富山いきいき）は、新年度当初に開催される恒例のゾーン会長・幹事会で、今年のライオンズ・デーはゾーン合同で奉仕活動に取り組むことを決議した。

富山西ライオンズクラブの田畑裕二会長から「ホクリクサンショウウオ（絶滅危惧種）の生息地が危ない」という情報を提供頂いたことがきっかけとなり、戸田治ゾーン・チェアパーソンの取りまとめの下、日本で唯一、里山を有する動物園・富山市ファミリーパーク内にあるトンボの沢で、大雨などで堆積した泥の泥上げを行うことになった。

当日の10月8日は暑くも寒くもない肉体労働に絶好の天気。7クラブからの選抜メンバー77人がスコップとバケツを手に、疲れも忘れ心地よい汗をかいた。

参加メンバーの感想を紹介しよう。

「久しぶりの動物園でルンルン気分で作業を始めた私たちに、後悔はじきにやってきました。が、いつ果てるともしれぬ作業の中、ドロドロになりながらも、次第に爽快感と童心に返るような懐かしさを感じ始めたのです。そして体感とは、思考を超えて事実を実感することだと気付きました。奉仕も『百聞は一験（経験）に如ず』、体感以外では生まれないことに改めて気付いたことが、何よりも大きな収穫でした。来年はぜひ、この感動を他の人にも味わってもらいたいと思います」

今回のアクティビティは皆の努力があって、成し遂げることが出来た。キャビネットの環境事業方針「地域にビオトープを作ろう」にも合致し、市民の憩いの場の環境整備も出来るすばらしい事業となった。

（地区委員／長江正憲）

332-F地区第1リジョン第1ゾーン、第2リジョン第1ゾーン・第2ゾーン（秋田県）

クリスマス献血キャンペーン実施

12月3日、4日の両日、第1リジョン第1ゾーンと第2リジョン第1及び第2ゾーンの秋田市周辺の16クラブは合同で、JR秋田駅前のアゴラ広場で「クリスマス献血キャンペーン」を実施した。血液が不足する冬場に献血を呼び掛けようというこの企画は1984年から続いており、今回は2日間で99人の市民らが献血してくれた。

県赤十字血液センターによると、県内は少子高齢化の影響などで獲得出来る献血量が減少しているのに加え、12～3月は風邪で体調を崩したり、雪でバスが運行出来なかったりするため更に献血者が減るのだそうだ。1週間当たり約50人分の血液が不足しているという。

我々は献血の看板を掲げて道行く人たちに協力を呼び掛けながらティッシュペーパーを配り、また採血を終えた方たちには、お礼のお菓子をプレゼントした。

県赤十字血液センターの担当者からは「ライオンズの協力がなければ成り立たない」と感謝されている。血液を必要としている患者さんはクリスマスも病気と闘い、血液を待っていると聞き、この活動の必要性を強く感じる。これからもより多くの人が献血に協力してくれるよう呼び掛けていきたい。

（秋田中央ライオンズクラブ会長／浜野正）

332-B地区第1ﾘｼﾞ第1ｿﾞｰ(岩手県)

被災児童をドラえもんの科学未来展へ招待

10月15日、どんよりと重い雲が垂れ込める朝、盛岡駅前に宮古・田老地区から児童104人を乗せたバス1、2号車が到着した。当リジョンが被災児童支援の合同アクティビティとして招いたものだ。

あいさつの後、今回の目的である「ドラえもんの科学未来展」会場へ。子どもたちは、現代科学技術で実現された夢のようなひみつ道具を体験し楽しんだ。今まだ苦しい状況にある沿岸被災地の子どもたちが、ドラえもんに描かれた未来に触れて、少しでも将来に希望を思い描くようになってほしいと、メンバー全員が改めて思った。

また、3号車は同時刻に48人を乗せて「盛岡市子ども科学館」を見学。人数制限があり全員一緒には入場出来なかったため、二手に分かれたのだ。

時間を見計らって合流し、老舗東家で子どもたちお楽しみのわんこそばに挑戦した。ほとんどの子がわんこそばは初体験だったが、付き添いのライオンが心配するほどがんばって食べていた。

午後はまたバス3台が見学場所を交換する形でそれぞれの目的地へ向かった。

帰路に着く時も、元気にバスに乗り込んだ子どもたちは車窓から、見送りのライオンたちに大きく手を振り笑顔で帰っていった。

今回の合同アクティビティを実行するに当たり宮古岩手、田老、陸中宮古の各クラブには、被災されているにもかかわらず、派遣児童の募集から当日のお世話までお骨折り頂いた。また見学先、当ゾーンのアラート委員等、大勢の方々の善意により実現することが出来たと感謝している。

(ゾーン・チェアパーソン/首藤節雄)

代議員及び補欠代議員証明用紙

ライオンズクラブ国際協会へ提出

（2012 年 5 月 1 日までに国際本部へ郵送してください）

ライオンズクラブ国際大会 - 2012 年韓国・釜山

クラブ番号：　　　　地区：　　　　代議員割当数：

会員数：

クラブ名：

住所：

代議員割当数については国際会則第 6 条第 2 項をご参照ください。

これは大会登録用紙ではありません。各代議員は、資格証明を受ける前に、大会登録用紙に登録手数料を添えて国際協会の大会部あてに**必ず**提出してください。登録には、ライオンズクラブ国際協会のウェブサイトからダウンロードした用紙をご利用いただくか、もしくはライオンズクラブ国際協会のウェブサイト（www.lionsclubs.org）でのオンライン登録をしていただくことが可能です。

該当するものを一つ選択：　☐ 代議員　または　☐ 補欠代議員

氏名（ローマ字）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　署名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

下記署名者は、上記の者が正会員であり、本年度ライオンズクラブ国際大会への代議員（または補欠代議員）として、当ライオンズクラブにより正式に任命されたことをここに認定する。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

クラブ役員（クラブ会長、幹事または会計）の署名

本書類の上半分をライオンズクラブ国際協会（クラブ役員及び会員記録課宛て）に 2012 年 5 月 1 日までに郵送してください。この期日以降は大会会場にご持参ください。

Lions Clubs International, 300 W. 22nd Street, Oak Brook, IL 60523-8842 USA

JA

代議員／補欠代議員控え

（この控えを国際大会にご持参ください）

ライオンズクラブ国際大会 - 2012 年韓国・釜山

クラブ番号：　　　　地区：　　　　代議員割当数：

会員数：

クラブ名：

住所：

LCI stamp for Alternate Delegate

代議員割当数については国際会則第 6 条第 2 項をご参照ください。

これは大会登録用紙ではありません。各代議員は、資格証明を受ける前に、大会登録用紙に登録手数料を添えて国際協会の大会部あてに**必ず**提出してください。登録には、ライオンズクラブ国際協会のウェブサイトからダウンロードした用紙をご利用いただくか、もしくはライオンズクラブ国際協会のウェブサイト（www.lionsclubs.org）でのオンライン登録をしていただくことが可能です。

該当するものを一つ選択：　☐ 代議員　または　☐ 補欠代議員

氏名（ローマ字）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　署名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

下記署名者は、上記の者が正会員であり、本年度ライオンズクラブ国際大会への代議員（または補欠代議員）として、当ライオンズクラブにより正式に任命されたことをここに認定する。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

クラブ役員（クラブ会長、幹事または会計）の署名

●獅子吼（ししく）
①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。
②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）

●投稿要領→54ページ

姉妹クラブ陸前高田訪問例会

殿村　直也（秋田県・比内）

10月9日、東日本大震災被災地・陸前高田ライオンズクラブを訪問する日がやってきた。

3月11日午後2時46分発生の巨大地震は、人々の生命や財産、思い出まで一瞬にしてのみ込んでしまった。岩手県陸前高田市全滅の報道に、比内ライオンズクラブ唯一の姉妹クラブである陸前高田ライオンズクラブのために何か出来ることはないか協議し、救援物資を募ることに決まった。早速、看板を出したり、メンバーにはFAXで、町民にも地元新聞を通じて呼び掛けたところ、2トントラック満載分約2500点の物資が届けられた。高速道路開通後の3月25日、どこよりも早く支援物資を届けることが出来た。

そして時が流れ、自分の会長任期も終わった。クラブの中では例会ごとに、陸前高田ライオンズクラブへの支援の方法について協議を重ねてきた。「新米がとれたら、郷土名物きりたんぽを持って行き、勇気と希望を届けよう」と決まった。

訪問の前日から、ライオネスの方々はだし取り。これも地鶏生産業者がメンバーに居るから出来ることである。一方、会員たちはお土産の新米180キロを小袋に分け、5キロずつ36個分を作った。

当日は6時半に比内を出発。早朝は霧が深かったが、8時頃には霧が晴れ快晴となった。午前10時20分、予定通り陸前高田市到着。ライオン10人、ライオネス7人の総計17人に対し、先方の陸前高田ライオンズクラブはライオン20人、ライオネス10人の総勢30人である。

イラスト／小川和政

会場の職業技能研修センターの車庫には、亡くなられた金野亨元地区ガバナーを始め、7人の遺影が飾られていた。思わず涙がこぼれる。壁には市立病院の医師が撮影した津波の写真が、17枚のパネルに収められていた。刻々と押し寄せる津波、撮影者も恐怖と戦って夢中でシャッターを切ったと思われる。

午前11時、例会が始まった。陸前高田ライオンズクラブ熊谷又吉会長の開会ゴングで始まり、国歌斉唱、ライオンズクラブの歌と進み、7人のメンバーの遺影に黙祷を捧げた。熊谷会長はあいさつの中で、

「大切なメンバーを失ったことは悲しい。しかし我々は、失った郷土復興の申し子となり、ひたすら地域の担い手となって、復興に努力する」

と力強く語った。また、比内ライオンズクラブ佐藤良悦会長は、

「33年にわたる長い付き合いの中で、メンバーを失ったことは身内を失うのと同じだ。本日は郷土料理きりたんぽに勇気と希望を載せて持って参りました。1日も早い復興を願う」

と結んだ。ライオン乳井宏資の乾杯の発声で懇親会が始まる頃には、気温も上がり25度はあろうかと思われる程で、上着もいらないくらいであった。亡くなったライオンの思い出や、参加されたメンバーの近況などを

語り合い、瞬く間に時間は過ぎていった。そして参加者全員輪になって「また会う日まで」を歌い退出となった。

その後、陸前高田ライオンズクラブメンバーの案内で、被災復興のシンボルとなっている、高田松原7万本中ただ1本だけ残った「一本松」を見せてもらった。奇跡的に残った一本松も枯れ始めており、樹木医が懸命の治療を行っていると言われている。被災の現実を見ると、復興はこの先何年かかるか分からない。

震災を後世に残すべく、一冊の本を頂いた。『未来へ伝えたい陸前高田』という写真集である。巻頭を飾る詩があった。

「おらぁやっぱりここがいい
大津波で全部なぐなっても
地震でぼっきれでも
やっぱこの街が好きだ
やっぱここに居たい
ここぁ一番だ
二度と同じけしきぁ見れねぁども
二度と同じ建物ぁただねぁべども
おらどの目にぁしっかり焼ぎついでいる
わっせるごどねぁあの景色
おらどの街
やっぱりここがいい」

具体的にどのように支援していけるのか、一個人の力は弱い。復興を目指す力強い意思と、地域住民の結束が必要だ。復興のグランドデザインが出来上がり、11月にも実施されるとのことである。津波で家屋や家族を失っても立ち向かう気持ちを失ってほしくはない。

がんばろう日本、がんばろう東北、がんばろう岩手、がんばろう陸前高田。

が、がんばるには裏付けが必要だ。政府の厚い手当てが必要である。増税による復興対策と言っている「ドジョウ内閣」。早く手を打たないとやる気もしぼんでしまう。

陸前高田の海は、青く優しくほほ笑む。が、地震によって牙をむき、津波という鬼神となって人々を襲った試練。自然に対して、恵みの感謝を少し忘れてしまった警鐘であろうか。

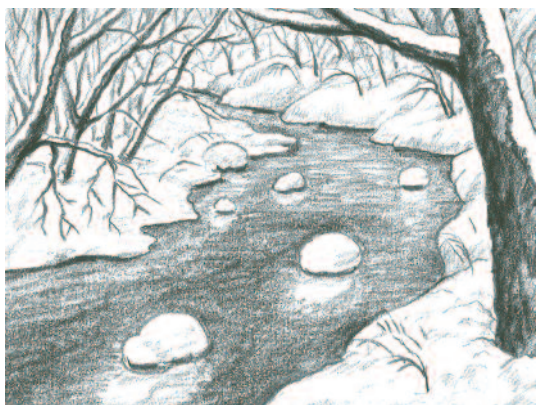
陸前高田の方々は「あの10分間ですべてを失った」と語っておられたが、必ずや強い意志を持って復興して頂きたい。

私はライオンズクラブ在籍27年となるが、「ウィ・サーブ」の原点は果たしてどこにあるのやら、まだもって漠然として探し出すに至っておらない。この訪問により「思いやり」ではないかとささやく声が聞こえた気がする。陸前高田の皆さんの力強い復興を祈って止まない。

角膜移植を待ち望んでいる方に 1日でも早く光を

識名 安信（沖縄県・八重山）

日本アイバンク運動推進協議会「おきなわ大会」が、ライオンズクラブ国際協会337-D地区（鹿児島県・沖縄県）とNPO法人日本アイバンク運動推進協議会の主催で、10月27日に開催されました。同協議会にとっては34回目、沖縄県では21年ぶりの開催となり、遠く北海道を始め、全国各地から300余人が参加されました。

基調講演はハートライフ病院の照屋明子先生を講師に迎え「角膜移植の現状と将来」についてお話を頂きました。また、日本アイバンク運動推進協議会最高顧問のライオン勧山弘が「光と愛と（アイバンク運動の心）」と題する講話の中で、一本のローソクをともし「このローソクは己の身を溶かし、己の身を焦がして周囲に光を与え続ける。同じように我々も周囲に光を与えるために活動を実践しなければならない」と力強く訴

えられ、聴衆一同感激に涙しました。
　角膜障害のため、失明の不幸に見舞われている人のために、善意による角膜提供登録者を募り、死後角膜の提供を受け、角膜移植手術よって開眼の機会を与える光と愛の運動が、アイバンク運動です。
「視力があり、聞く力をお持ちの皆さん方は強く勇敢で親切であります。この暗黒を無くする運動における、盲人たちの騎士に自らなって頂けないでしょうか」
　1925年、アメリカ合衆国オハイオ州で開催されたライオンズクラブ国際大会において、ヘレン・ケラー女史がこう呼び掛けました。それに応え、立ち上がったのがきっかけで、視覚障害者への支援は、伝統的にライオンズクラブの主要事業の一つとなっています。最近では、全世界的に視力ファースト・プログラムが推進されていますが、このアイバンク運動も、ヘレン・ケラー女史の呼び掛けに呼応してのものであります。
　我が国では1958年4月に「角膜移植に関する法律」が公布されて以来、全国各地でライオンズクラブなどが中心となってアイバンクを推進する運動が展開されてきました。その結果、全国ではこれまで120万人を超える人々が、献眼登録をしています。
　しかし近年は、その献眼登録者数も年々減少している他、献眼数も年間2千眼未満に減少しているのが現状で、国内で移植された角膜の40％が輸入に頼っているという由々しき状況にあります。そんな中、2009年には世界保健機関（WHO）年次総会で、海外での渡航移植の自粛を求める新指針案が承認されました。「輸入角膜」が、直ちにこの指針に抵触するものではありませんが、やはり自国の角膜は自国内で対処すべきであり、今後は角膜の自給自足が求められます。
　現在、全国では常時4千人を超える待機患者、つまり角膜移植希望者がおります。
　1日でも早く開眼の機会を与える光と愛の運動、アイバンク運動を一層推進するために、力を結集することが必要です。角膜移植手術を待ち望んでいる方の要望に応えるため、アイバンクに対する理解を深め、臓器提供意思表示カードの所持のお願いを始め献眼登録者を増やす活動をこれからも続けていきましょう。

（337-D地区ガバナー）

薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」

大石　誠（東京数寄屋橋）

10月16日、330-A地区における今期最大のアクティビティ「ダメ。ゼッタイ。薬物乱用防止大会」を、日比谷公会堂において開催致しました。おかげさまで万事順調に進行し、盛会のうちに大会を終了することが出来ました。
　現在、青少年の薬物乱用は大きな社会問題となり、教育の現場においても避けて通ることの出来ない課題となっています。テレビや雑誌、インターネットなどのさまざまなメディアには、子どもたちの興味や関心をあおり、薬物を試してみたいと思わせるような不適切な情報があふれています。そしてこれらの情報を、子どもたちが簡単に手に入れてしまう時代になりました。あるアンケートによると、多くの高校生や中学生が薬物の存在が身近に迫ってきていると認識しており、実に30％に及ぶ高校生、

10％に及ぶ中学生が、周囲に薬物を乱用している友人がいると答えています。

残念なことに、この問題に対する社会全体の意識は思ったよりも希薄であり、一部の子どもたちの問題としてしか捉えられていない傾向にあるのではないでしょうか。しかし実際は、ここ数年の間に日本国内において「青少年の薬物乱用」問題が大変危惧される状態に陥っており、高校生が校内で覚せい剤を乱用して逮捕される事件が頻繁に報道されるなど、今やその魔の手は小学生にまで拡大しているのが現状です。

そのような状況下にあって、薬物乱用に対する正しい知識を広めると同時に、薬物乱用が心身に及ぼす悪影響を子どもたちによく理解して頂き、これを許さない周囲の環境も合わせて形成していくことが何よりも大切なことであると考えております。

1997年に㈶麻薬・覚せい剤乱用防止センターと当330-A地区の共同認定で「薬物乱用防止教育認定講師」養成システムが創設されて以来、「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に養成講座が広く開催され、積極的な活動が進められて参りました。

今回、このアクティビティでは「子どもたちを薬物乱用から守ろう」「社会全体で子どもたちを守ろう」という強い信念の下、若年層への薬物乱用防止教育の推進を目的として執り行いました。当日は小学校高学年から中学生の子どもたちを中心に2千人を超える方々の参加があり、会場の子どもたちからは「麻薬は絶対にやめようと思う」「友達にも教えたい」などの感想が得られ、薬物への誘いとその適切な断り方を正しく学んで頂くことが出来たのではないかと自負しております。

また後援くださいました各省庁からも、私たち330-A地区の啓発活動のレベルに対し、高い評価を頂戴すると共に、NHKのテレビとラジオのニュースでも大会の趣旨と内容が大きく取り上げられ、ライオンズクラブの存在意義とその活動理念を広く一般社会に発信することが出来ました。これもひとえに皆様のご尽力あってこその成果であると強く実感しております。

今後も引き続き「We Serve」の理念の下、次世代を担うべき青少年のために、明るく豊かな社会づくりを目指し、ライオンズ・メンバーが一丸となって、薬物乱用防止に対する永続的な啓発活動に取り組んでいきたいものです。

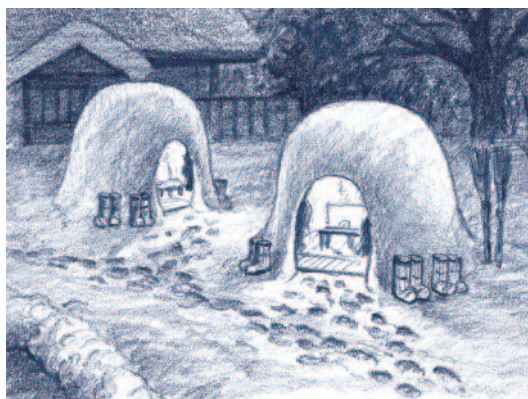
（330-A地区ガバナー）

心に架け橋を

染井 圭弘（福岡博愛eye support）

私は福岡市視覚障害者福祉協会の会長を務めております。視覚障害一級の全盲です。福岡博愛eye supportライオンズクラブに入会してまだ1年。よちよち歩きの子どもライオンです。

私どもの視覚障害者団体をご紹介する前に、昨年3月に発生した未曽有の大災害・東日本大震災に際しての、全国のライオンズクラブからの温かいご援助に対し、被災した視覚障害者に代わりまして、深く感謝申し上げます。日本盲人会連合の組織調査では、残念ながら、いまだに行方不明が3人。7施設と155人の仲間が被災し、福祉避難所や仮設住宅で不便な生活を余儀なくされています。組織外の視覚障害者を含めれば、この10倍近い数字になるだろうと言われています。

しかし、皆様方から差し伸べられた励ましの手に支えられ、必ず立ち上がってくれるものと信じています。長い復興への道の

りを、今後ともご支援くださいますようお願い申し上げます。

福岡市視覚障害者福祉協会（略称・福視協）は、昭和22年に福岡県盲人協会の福岡支部として発足し、58年2月には社団法人の認可を受けました。会員数は約280人。事業部、情報部、福祉対策部、職業対策部、広報部、文化部、体育部、青年部、女性部、高齢者対策部の10の専門部会を設置し、視覚障害者の自立更生に必要な援護を行い、福祉の増進を図ると共に、会員相互の連帯を緊密にすることを目的に活動しています。

例えば、無資格マッサージ業者の追放運動、福祉に関する講習会、会内外の情報収集と発信、青年女性高齢者特有の問題に対する研修と体験学習など。またそれらの問題、悩み、要望などを吸い上げ、障害者の全国組織に提案し、国や地方行政、関係機関へ陳情活動を行っています。

スポーツ文化の面では、グランドソフトボール（盲人野球）、サウンドテーブルテニス（盲人卓球）、ボウリング、水泳、フロアバレーボール、コーラス、カラオケ、将棋、茶道、社交ダンス、文芸、音楽鑑賞などのサークルがあり、楽しく活動しています。パラリンピックや世界大会、全国障害者スポーツ大会につながる種目もあり、これまで多くの競技で入賞しました。私どもが主催当番として大会を開催することもあります。現在は、社団法人、財団法人の制度改革に伴い、より公益性を高めた団体運営を目指して、新たな構築に取り組んでいるところです。

ライオンズクラブとのお付き合いは古く、福岡筑前ライオンズクラブ、福岡ノーマライゼーション ライオンズクラブの皆様からも、物心両面にわたりご支援頂いて参りました。

福岡博愛eye supportライオンズクラブ（旧・福岡博愛ライオンズクラブ）には、全国三曲演奏会（琴・三味線・尺八）、九州グランドソフトボール大会、同じくサウンドテーブルテニス大会主催への援助を始め、文化祭や盲女性研修会など、日頃の活動に対しても温かいご奉仕を頂いています。ライオンズクラブの皆様から、どれほど心強く勇気付けられたことか、言葉に尽くせないほどです。誌面を借りまして、衷心よりお礼申し上げます。

また金森克己会長からの誠実で熱心なお声掛けを受け、奉仕を受けるばかりではなく、障害者の側からも少しでも社会への貢献が出来ればと、心動かされて役員5人が入会し、皆様方の末席に並ばせて頂くことになりました。ライオンズクラブの精神や活動を私たちが学ぶと共に、会員にも点字や音声で伝えることが出来ればと考えています。

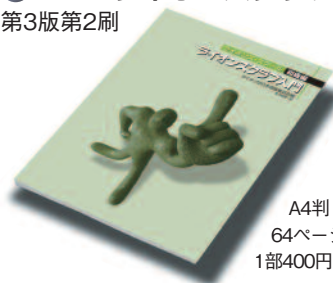
こうして共に活動し互いに触れ合うことで、視覚障害者の生活行動や気持ちなどを自然にご理解頂き、私たちも多くの知識を得たり、経験を積ませて頂いて、障害者の狭い世界から脱し、真に心の通い合う社会の実現の一助になれば、この上ない喜びです。

障害者と健常者、その架け橋の礎になれれば幸いです。

先輩ライオンのご指導を頂いて、「ウィ・サーブ」と声高らかに胸張れるよう努力して参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

ライオン誌日本語版出版物

ライオンズスクール・シリーズ

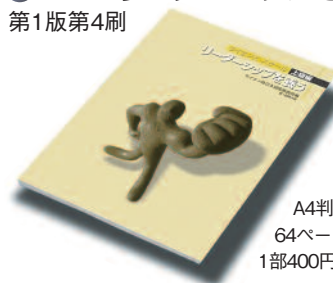
初級編・ライオンズクラブ入門
第3版第2刷

A4判
64ページ
1部400円・送料実費

入会したての新会員を対象に、これだけは知っておきたいライオンズクラブの基礎知識をまとめた。併せて「ライオンズ用語集」も収録。

中級編・クラブ運営の基礎知識
第3版第2刷

A4判
64ページ
1部400円・送料実費

クラブ運営の基本を分かりやすく解説。知識を確認したり、セミナーや研修会などでグループ・ディスカッションに利用出来るワークシート付。

上級編・リーダーシップを養う
第1版第4刷

A4判
64ページ
1部400円・送料実費

国際協会の総合的リーダシップ育成プログラムを基に編集。地区役員研修会などの副読本に、またクラブ会長や地区役員の指導力育成に最適。

※ライオンズスクール・シリーズはいずれも50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引＝100～499部350円／500部以上300円

ウィ・サーブ

1952年に初めてのライオンズクラブが誕生してから50年。世界有数のライオンズ国となった日本ライオンズ半世紀の軌跡。
B6判 332ページ
1部800円・送料実費

ライオニズムよ永遠に

ライオンズクラブの創設者メルビン・ジョーンズの生涯を時代と共に活写した労作。ジョーンズの書簡集と寸言録も収録。
B6判 224ページ
1部800円・送料実費

『ライオン』誌創刊号復刻版

1958年、『ライオン』誌日本語版創刊。発行部数はわずか4,500部だったが、誌面からは草創期の活気がひしひしと伝わってくる。
B5判 68ページ
1部300円・送料実費

※お申し込みは下記注文書をお使いの上、郵送またはファクスでお願いします。
※電子メールの場合は、地区名・クラブ名・お名前・ご住所・お電話番号を明記し、office@thelion.jpあてにご注文ください。
※ライオン誌ウェブマガジンからオンラインでのご注文も承っています。下記のライオンズ文庫注文フォームからどうぞ。
https://www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=2
※請求書・振込用紙は、品物に同封します。（大口注文の場合は別便で送付）

〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　ライオン誌日本語版事務所（FAX：03-3546-2630）

キリトリ線

ライオン誌日本語版出版物　注文書

●ライオンズクラブ入門 …………　部　●ウィ・サーブ …………　部
●クラブ運営の基礎知識 …………　部　●ライオニズムよ永遠に …………　部
●リーダーシップを養う …………　部　●『ライオン』誌創刊号復刻版 …………　部

地区名 33 -	クラブ名	お名前（クラブで注文の場合は不要）
ご住所 〒 -		お電話番号

ふるさと探訪

栃木県大田原市

再び畑を赤く染める トウガラシの里

文／砂山幹博　写真／田中勝明

トウガラシが日本の食卓に至るまで

かつて日本では盛んにトウガラシが栽培されていた。最盛期の1963年頃には年間約7千トンも生産され、海外にも輸出されていた。そのピーク時を支えたのが、栃木県大田原市。当時、国内生産量の7割を占めるほどの一大産地であった。栃木県の北東部に位置するこの町が、なぜ日本有数のトウガラシ産地となったのか。これを解明するには、日本におけるトウガラシの歴史について、順を追って説明する必要がある。

トウガラシはアメリカ大陸中南部原産のナス科植物で、アメリカ大陸を発見したコロンブスによって、1493年に初めてヨーロッパに移植され、またたく間に世界中に広がった。初期の頃は香辛料としてではなく、気管支炎などの痰切り、食欲増進といった薬効が重視されていた。大航海時代においても船乗りたちの薬として積み込まれ、これが交易先の国々に伝わるのである。

日本に入って来たのは安土桃山時代。「唐辛子」というネーミングから中国からの伝来をうかがわせるが、意外にもポルトガルの南蛮船によって持ち込まれた。船員たちにはかけがえのない食材であったが、日本では当初薬として利用されたほか、足袋のつま先に入れる霜焼け止めとして用いられていた。

豊臣秀吉の軍が朝鮮に出兵した際も、凍傷予防用にトウガラシが装備されている。一説によると、この時初めて朝鮮半島にトウガラシが伝わったという。今では韓国料理にはなくてはならないアイテムであるが、伝来のきっかけがかの地を攻めた秀吉軍だったとは意外である。

その後、トウガラシはそばやうどんの薬味・七味唐辛子として普及。無病息災、厄除けの土産として寺社に露店が立つようになり全国に広まっていった。明治の世になり、脂っこい食べものが多く入って来るようになると、薬味としてだけではなく料理にもトウガラシが使われるようになる。そして昭和初期にカレーライスが爆発的にヒットしたことで、トウガラシは食材として確固たる地位を築くことになる。

収穫間近のトウガラシ畑。逆さに実をつけるその姿はまる花のようだ

一大産地、大田原の誕生

1923年の創業で、トウガラシやそれを使った製品の製造販売を手がける吉岡食品工業㈱の創設者、吉岡源四郎はいち早く人気のカレーライスに目を付けた。カレーに使われているスパイスはほとんどが外国産。在庫が不安定な上、値段の上がり下がりも激しい。そこで、ショウガ、ウコン、トウガラシに関しては出来る限り国産で賄おうという動きになっていった。元がトウガラシ屋である源四郎にとっては願ってもない展開である。

源四郎は東京・武蔵野にトウガラシ畑を持っていたが、今後大量に消費されるであろうトウガラシを栽培するに

は手狭であった。そこで、栽培に適した土地を徹底的にリサーチした結果、栃木県の大田原に白羽の矢を立てた。今でこそ水田が開墾されているが、かつては「手にすくう水もなし」と詠われた荒れ地で、１９３７年当時で畑作がやっとの土地である。源四郎はこの運命の地にトウガラシを持ち込み、東京のカレーメーカーとの契約栽培を始めた。カレーライスの人気もあって商売は順調であったが、太平洋戦争開戦で契約栽培は中断を迫られた。食糧不足の戦時中に、お腹を満たせる作物ではなくトウガラシを作るのは気が引けたが、「赤い宝石」に魅せられた源四郎は細々と栽培を続けた。

　転機が訪れたのは、またもや戦争が

農家から仕入れたトウガラシは、ふるいや磁石、目視選別によって異物除去される

きっかけであった。1950年の朝鮮戦争である。軍事食糧として米軍が日本のトウガラシを大量に買い上げるようになった。いわゆる朝鮮特需の波にトウガラシも乗ったのだ。作れば作っただけ買ってくれる上、当時、政府が喉から手が出るほど欲しがったドルが手に入った。トウガラシはいわば外貨獲得のヒーローであった。それまで乾燥トウガラシの国内消費量は2千トン前後であったが、朝鮮特需の時は大田原だけで5千トンを生産していた。こうして1955年以降、大田原は他の産地をしのぎ、トウガラシの一大産地として発展していった。

「栃木三鷹」で町おこしを

大田原で栽培されたのは「栃木三鷹」という乾燥用の品種。吉岡源四郎が大田原で品種改良を重ね、完成させたトウガラシだ。一般的に劇辛の部類に入る。ハウスで育苗された栃木三鷹は、5月に畑に植えられる。最初真っ青だった身が9月に入ると一斉に赤く色づく。10月末から11月にかけて霜の下りる直前が収穫の時期だ。根ごと引き抜かれた茎を逆さにつるし、日陰で約2カ月間乾燥させた後、一つひとつ手でもぎっていく。すべて手作業であるため、1軒の農家でせいぜい1反歩（300坪）から2反歩分を作るのが限度。ところが最盛期は1軒で平均5反歩、多いところで10反歩（1町歩）ものトウガラシを作った。自分たちで手が足りない分は、内職でもぎってくれる主婦が町に大勢いたのだ。

「大田原のトウガラシ産業が華やかだったのは昭和30年から50年の20年間だけ。ドルが変動制になると価格も半減。トウガラシ栽培を敬遠する農家も出てきました」

と話すのは、源四郎の孫で現・吉岡食品工業社長の吉岡博美さん。中国産を始め価格の安い輸入品が市場を席巻すると、真っ赤なじゅうたんのようだったトウガラシ畑の風景は一気に消滅。しかも、あれだけもぎった主婦たちも家庭でトウガラシを食事に取り入れるようなことはなかった。一大産地であったにもかかわらず町にトウガラシの文化が全く根付いていなかったのだ。

「トウガラシ料理一つ残らなかったことはずっと心残りでした。だから観光協会の方々から『大田原にトウガラシの名物を作りたい』『トウガラシを使った料理を根付かせたい』と相談を受けた時は本当にうれしかった」（吉岡社長）

2003年、観光資源の少ない大田原を何とかしてPRすべく、市観光協会は「食」をテーマとした新たな観光資源の開発を企画。歴史的観点から見

大田原の名物として定着しつつある、麺にトウガラシ粉末を練り込んだ「とうがらし支那そば」（撮影協力：荒喜家）

和菓子にトウガラシを使用した商品も多数開発されている（撮影協力：和菓子処 木村屋）

那須与一も戦勝祈願に訪れたと言われる那須神社

ても大田原と関係の深いトウガラシに着目して商品開発を進めることになった。吉岡社長や地元企業の協力もあり、トウガラシ入りのどら焼きやようかんなどを次々と開発。3年後には農家に栽培を呼び掛け、加工会社や飲食店なども加わり「大田原とうがらしの郷づくり推進協議会」が設立された。3戸にまで減少していた栽培農家は、59戸まで増加。町には「とうがらしの郷大田原」ののぼりが翻り、新たな観光資源として定着しつつある。

郷土自慢・クラブ自慢

大田原ライオンズクラブのクラブ自慢は「扇の的」の活躍で知られる那須与一。中世から近世にかけてその与一を生み出した那須氏の拠点があったのが現在の大田原市である。

1185年、屋島の戦いの際「小舟に浮かぶ扇の的を射よ」との平家の挑発に、源氏の代表として選ばれたのが弓の名手与一であった。海に馬を乗り入れて弓に矢をつがえてみたものの、扇の的まではまだ40間（約70メートル）もある。しかも北風が激しく扇の的は小舟と共に揺れている。失敗すれば自害も覚悟と意を決し、渾身の力で矢を放つと、うなりを立てて飛び放たれた矢は見事扇を射落とした。『平家物語』でも最も有名なエピソードの一つである。この時の手柄で与一は丹波や信濃、若狭の領地を拝領。その後、地元の那須神社に帰ってきて太刀を納めた後、京都伏見で病死したとされている。

与一に関する史料がほとんどないため、はっきりしたことは分からないが、現在七つの県に那須与一の墓が存在していることは分かっている。その人気、推して知るべしである。市内「那須与一伝承館」では、与一や那須氏に関連する資料が展示されている他、「扇の的」での与一の活躍をからくり人形劇で楽しむことが出来る。

▼大田原ライオンズクラブ（郡司隆会長／47人）＝1975年2月19日結成／スポンサー：黒磯ライオンズクラブ

大田原の夏を彩る代表的なイベント「与一祭り」と、秋に開催される「産業文化祭」に出店。青少年健全育成活動の資金獲得活動として、メンバー自ら餅つきを行い、その餅を販売している。

読者から―12月号

■変化への対応

「ライオンズクラブ統計」を見て、改めてインド、台湾、中国といった国々の隆盛ぶりと、日米欧の苦境の様子が感じられました。この傾向が今後も強まってくるのは間違いないでしょう。このことがライオンズの在り方を歪めることになるとは思いませんが、様相はかなり違ったものになりそうな気がしました。また会員の高齢化によって、死亡や病気による退会者が今後ますます増えることは不可避であります。若い人たちの増強と共に、社会で活躍する多くの女性の増強が大切であると感じました。

兵庫県・宝塚グリーンライオンズクラブ●豊田高浩

■被災地を思う

「被災地のライオンズは今」では、大変な被害に襲われた各地の皆さんが、ライオンズの名の下にみんなで協力して前に進んでいく姿に感動しています。私自身も建築の専門家として、ライオンズクラブの一員として、今後も復興に協力をしていきたいと思っております。厳しい冬が到来しました。被災地の皆さん、どうぞ体に気を付けてください。

新潟県・上越ライオンズクラブ●清水恵一

■震災記事の継続を

被災地の状況は毎号読んでいます。私のクラブ、姫路鷺城ライオンズクラブでは昨年11月、被災地にクリスマスツリー（業務用の大きいもの）435本を、姫路市内の小学生による手書きのオーナメントなどと一緒に送りました。335複合地区においては、多大なるご迷惑をお掛けする不祥事がありましたが、一人以外は、各会員、各クラブが被災地に心を寄せて支援に取り組んでいるものと思います。今後も引き続き震災関連記事の掲載をお願いします。

兵庫県・姫路鷺城ライオンズクラブ●早川弥弘

■有意義なライオン誌例会

「クラブ・リポート」では各クラブの個性あふれるアクティビティをいつも楽しく読ませて頂いております。震災復興支援のアクティビティは各クラブによってさまざまな形で行われていますが、これからも根強く続けていきたいものです。また、たくさんのメンバーにライオン誌を読んでもらうためのライオン誌例会は、本当に有意義なことだと思います。クラブ運営に大変役立つ記事やヒントがあり、クラブ活性化に役立てたいと思います。

兵庫県・芦屋ライオンズクラブ●中嶋成光

ライオン誌事務所来訪者芳名録

12/1 神奈川県横浜金港 小山 正武
12/14 兵庫県山崎 本條 潔
12/16 岐阜県土岐織部 加藤万寿夫
12/20 東京 守時 光暉

ライオン誌例会のススメ

ライオン誌日本語版委員会はライオン誌を活用する「ライオン誌例会」を推奨しています。本誌記事を材料に、例会で発表やディスカッションをしてはいかがでしょう。

2月号THEME（5～15ページ）は、関心が高まっている自然エネギーを取り上げ、市民による自然エネルギー発電の事例も紹介しました。太陽光などの自家発電、また省エネルギーには、会員の企業や家庭でもさまざまな取り組みがなされているはず。例会でそうした事例を発表してもらえば、情報交換にもなります。

ライオン誌例会のノウハウを収めた**「ライオン誌例会 開催ガイド」**をぜひご活用ください。ライオン誌ウェブマガジン（www.thelion-mag.jp）でPDFファイルをダウンロード出来ます。

ライオン誌投稿要領

■クラブ・リポート 今月号32～41ページ：アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に800字程度で。写真があれば添付。

■獅子吼 今月号43～47ページ：会員及びその家族によるエッセー、提言など。1,600字程度。

▼原稿は誌面の都合で編集したり、掲載出来ない場合があります。原則として原稿の返却は致しません。返却希望の場合はその旨を明記してください。
▼アクティビティ写真は動きのあるものを。記念撮影のような写真は掲載に適しません。
▼電子メールでの写真投稿は長辺1,600ピクセル程度のJPEG最高画質で。
▼住所、氏名、クラブ名を明記。

送付先：〒104-0045
東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
ライオン誌事務所
Fax：03-3546-2630
E-mail：edit@thelion.jp

『ライオン』誌バックナンバーから、読者の皆さんにぜひもう一度読んで頂きたい記事をピックアップ。スペースの関係上、多少の編集を加えている場合があります。

もう一度読みたい「あの記事」

●1974年11月号　アクティビティへの反省　その1

「優れたアクティビティとは」

守屋正（京都紫明ライオンズクラブ）

ライオンズクラブには、良い面と、反省を要する面とある。このことは何もライオンズに限ったものではないが、日頃ライオンとして反省していることを率直に述べよう。

私は302W-B地区のデピュティ・ガバナー（現リジョン・チェアパーソン）をしている者であるが、やはり、ライオンズクラブの本命はアクティビティであると確信している。そのことによって、友愛も知性も必然的に生まれてくるものである。

数年前のライオン誌の記事で、アメリカのイリノイ州ピオーリアライオンズクラブの会長が、盲人が黒い杖を持って道路を難儀しながら横切るのを見て、あの黒い杖を白い杖にしたらきっと便利なことだろうと考えついて白杖運動を始め、それが州から国全体へ、そして世界に広がった（＊注）と読んだことがある。日本に白い杖が初めて伝わったのは、終戦後アメリカの一神父が、京都の盲学校で、アメリカから白い杖を取り寄せて贈呈したのが初めてで、それから日本中に広まったのである。

私はこの黒を白に変えるというアイデアがどんなに尊いものであり、計り知れない優れたアクティビティであったかと深く敬服している。ピオーリアの会長の頭の中にはいつも善意が満ちていたからこそ、こうしたすばらしいアクティビティが生まれたわけである。

私はライオンズのアクティビティの対象が十分に研究されているかどうかということが、いつも気に掛かっている。その場なりの思いつきや、極端に言うと、鯉に餌を与えるような尊大な気持ちがありはしないか、ということをいつも反省している。上から下へ物をやるのは慈善であって、奉仕ではない。

京都市とイタリアのフィレンツェ市は姉妹都市であり、私はその友好の副委員長をしているが、今から三代前の市長は実に慈愛に満ちた人で、冬、路傍で寒さに震えている人を見た時は、自分の外套を脱いで与えたそうである。これは慈善ではなく、市長と市民とが一体になった人間愛の行為である。

余談だが、今の市長のバウジ氏も助役のレオ氏もいずれもライオンズのメンバーで、立派な方ばかりである。

私はホノルルでマッサージ師として成功している日系二世の盲人を知っている。その人の家に立派な盲導犬がいたので、「この犬は高いでしょうね」と言ったところ、ある団体から無償で頂いたのだという。驚いたことに、その犬の一生分の餌をつけてもらっているのである。「ハワイの盲人は、誰でも盲導犬をもらっていますよ」と言っておられた。この心のこもったアフターケアのついた支援には、奉仕に宿る真実の愛情を深く教えられた次第である。

＊注：白い杖の発祥には三つの逸話がある。1921年、事故で視力を失ったイギリスの写真家ジェームズ・ビッグスが、交通量の多い自宅周辺を歩きやすくするために自身の杖を白く塗った。30年、ピオーリアライオンズクラブのジョージ・ボンハム会長が、視覚障害者の歩行を助けようと、白い杖に赤線を施すアイデアを提案。クラブは杖を作って配布し、その活動はすぐさま全米のライオンズに広まった。31年、フランスのギリー・デルベモントが視覚障害者のために全国的な白杖運動を展開した。

読者プレゼント

■大田原産トウガラシを5人に

「ふるさと探訪」（49ページ）で紹介した栃木県大田原は特産のトウガラシで町おこしを図っています。その大田原産のトウガラシ「栃木三鷹」で作られた「一味」と「七味」をセットで読者5人にプレゼント。

応募要領：ご希望の方は、はがきに「トウガラシ」と明記し、氏名、クラブ名、住所、電話番号をご記入の上、ライオン誌プレゼント係までご応募ください。ライオン誌ウェブマガジン（www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=0）からオンラインでの応募も出来ます。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。

締切は2月末日。応募多数の場合は抽選となります。当選のお知らせはプレゼントの発送をもって代えさせて頂きます。

次号予告

THEME **LCIF**

視力、青少年、災害救援、その他の人道奉仕という基本分野で交付金を支給し、ライオンズクラブの奉仕をサポートするLCIF。日本のクラブがタイ北部チェンライ、チェンマイで実施した交付金事業のリポートと、2010-11年度のLCIF年次報告を掲載する。

Pick up **女性会員**

日本の女性会員の割合は11％と、世界の23％から大きく遅れを取っている。女性会員の増加を阻む障壁は何か？　女性をライオンズに引きつけるには？　来年度はガバナーとして地区をリードする女性の第1副地区ガバナー３人が語り合った。

ふるさと探訪 **宮崎県日向**

日向市は全国で唯一の「はまぐり碁石」の産地。また木目が美しい「かや碁盤」の産地でもある。

伝言板

●植樹アクティビティ報告募集

5月号「THEME」はタム国際会長の植樹キャンペーンを取り上げ、植樹アクティビティをリポートします。クラブが実施した植樹の報告（実施日・場所、植樹の本数・樹種、活動の特徴を付記）をお送りください。報告はライオン誌ウェブマガジンの「クラブ・リポート投稿」欄に投稿するか、edit@thelion.jpへEメールで。締切は3月5日（すべての報告が掲載されるわけではありません）。

築地通信

●THEMEで取り上げた自然エネルギーの割合は、どんどん増やしていくべきだと思う。私も日頃から、電化製品の不使用時には電源を切るなどして節電を心掛けている。それが昨年3月以降、月々の電気使用料が約20％減少。12月支払分では36％減を記録した。節電策はそれまでとあまり変わらないのだが、不思議な現象だ。電力って気力で補えるの？（やなせ）

●訂正とお詫び

1月号ライオンズ・ニュース・カセット26ページの「200％MJFクラブ」の中で、北海道・札幌アカシアは、札幌アカシヤの誤りでした。お詫びして訂正します。

ライオン誌広告料金表

区分	種別／スペース	金額
表紙２	4色／1ページ	￥600,000
表紙３	4色／1ページ	￥500,000
表紙４	4色／1ページ	￥700,000
記事中	4色／1ページ	￥480,000
記事中	1色／1ページ	￥270,000
記事中	4色／3分の1ページ	￥160,000
記事中	1色／3分の1ページ	￥110,000
ハガキ	1色／1葉	￥700,000

※年間契約：年3回以上の出稿を条件に5～25％の割引制度があります

※会員割引：ライオンズクラブ会員は10％の特別割引があります（年間契約との併用可）

問い合わせ先：ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1
築地細田ビル7階
電話：03-3542-9571
ファクス：03-3546-2630
Eメール：office@thelion.jp

大災害とボランティアとライオンズ

ライオン誌
日本語版委員
◉
竹本實生
（大阪府・池田）

人生80年が長いか短いかは人それぞれの感じ方と思うが、生きている間には何が起こるか分からないと、昨年の東日本大震災と近畿地域の台風被害によって実感させられた。

これらの大災害は我々に根源的な問いを投げ掛けることになった。いわく、「大自然の圧倒的な力と共存の在り方」「人の命のはかなさ」「忘れつつある家族の絆」「原発の是非」などなど。これらの本質的課題に解はないと言ってもいいし、いくつもあるとも言える。それだけに方向性を見いだせないまま、記憶から薄れていくのかもしれない。しかし、我々に言葉では表せない強い影響を与え続けていくことになるであろうと思う。

災害後、ボランティア活動が非常に活発になり、人々の関心も高まってきた。ボランティアの語源は「自由意志から出た奉仕者」で、暇や金がある人の行う慈善や恵みではなくて、生きていく喜びを共に分かち合い、より良い社会を作っていくために自ら活動に参加することである。優しい心遣いの気持ちと親切心がありさえすれば、誰でも、いつでも、どこでも出来るのがボランティアである。

ライオンズ活動を進めていく上で何よりも大事なのは、クラブの自主性である。日本の管理社会とタテ割り社会の中で次第に自主性を失い、自ら汗を流す活動よりも行政に金品を贈呈し、寄付行為により辻褄を合わせるような活動が多く見受けられるが、これはライオニズムの本質や目的を忘れた行為である。社会的にもライオンズは単なる寄付団体と見られている場合が多く、それは残念なことである。

ライオンズ奉仕は地域社会への奉仕が基本であるが、社会情勢の変化に伴い、一つには地域社会、他方では国際貢献といった二面性の活動が重要になってきた。

会員はまず健康で仕事に励み、そしてボランティア本来の心の豊かさやゆとり、安らぎを与えるような活動に向かって進んでいきたいものである。

Official publication of Lions Clubs International

Published by authority of the Board of Directors in 21 languages – English, Spanish, Japanese, French, Swedish, Italian, German, Finnish, Korean, Portuguese, Dutch, Danish, Chinese, Norwegian, Icelandic, Turkish, Greek, Hindi, Polish, Indnesian and Thai.

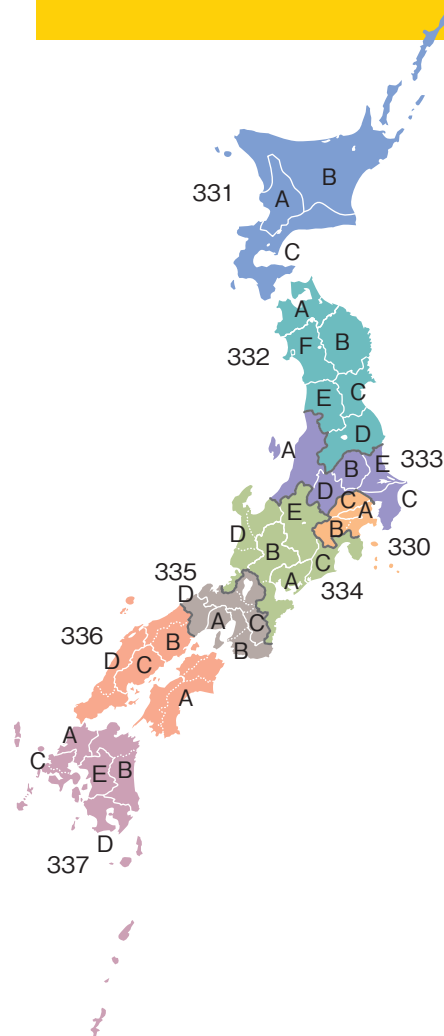
Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

ライオン誌日本語版委員会
国際理事　山浦晟暉
国際理事　秦　従道
国際理事　高田順一
委員長　澁田繁晴（337複合地区）
編集長　後藤　忍（331複合地区）
委　員　宇田川雄弘（330複合地区）
委　員　種市一二（332複合地区）
委　員　高濱正敏（333複合地区）
委　員　矢口武克（334複合地区）
委　員　竹本實生（335複合地区）
委　員　小田邦雄（336複合地区）

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571(代)　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website:www.thelion-mag.jp

日本のライオンズ　2011.12.31　eMMR ServannA報告による

地区	都道府県	クラブ数	会員数	男性会員	女性会員	期首からの増減
330-A	東京	200	4,971	4,296	675	44
330-B	神奈川・山梨・東京	179	4,969	4,389	580	47
330-C	埼玉	97	2,421	2,158	263	21
330	計	476	12,361	10,843	1,518	112
331-A	北海道（道央）	71	2,491	2,314	177	40
331-B	北海道（道北・道東）	90	2,514	2,397	117	32
331-C	北海道（道南）	56	1,894	1,698	196	9
331	計	217	6,899	6,409	490	81
332-A	青森	66	1,736	1,590	146	18
332-B	岩手	55	2,243	1,578	665	25
332-C	宮城	76	1,559	1,275	284	26
332-D	福島	76	1,985	1,795	190	29
332-E	山形	58	1,841	1,637	204	25
332-F	秋田	51	1,303	1,068	235	17
332	計	382	10,667	8,943	1,724	140
333-A	新潟	77	2,841	2,528	313	-7
333-B	栃木	57	1,591	1,145	446	8
333-C	千葉	139	3,565	2,980	585	29
333-D	群馬	53	2,100	1,702	398	24
333-E	茨城	78	2,834	2,530	304	25
333	計	404	12,931	10,885	2,046	79
334-A	愛知	121	5,331	4,780	551	63
334-B	岐阜・三重	83	3,550	3,273	277	46
334-C	静岡	83	3,198	3,079	119	42
334-D	富山・石川・福井	97	3,917	3,670	247	27
334-E	長野	53	2,087	1,852	235	49
334	計	437	18,083	16,654	1,429	227
335-A	兵庫（東）	98	2,446	2,098	348	-4
335-B	大阪・和歌山	188	5,720	5,071	649	26
335-C	滋賀・京都・奈良	121	3,981	3,672	309	49
335-D	兵庫（西）	68	2,002	1,791	211	4
335	計	475	14,149	12,632	1,517	75
336-A	徳島・高知・香川・愛媛	151	5,654	4,994	660	37
336-B	鳥取・岡山	96	3,139	2,830	309	-5
336-C	広島	101	3,492	3,292	200	40
336-D	島根・山口	102	3,284	3,055	229	30
336	計	450	15,569	14,171	1,398	102
337-A	福岡・長崎	117	4,502	3,982	520	78
337-B	大分・宮崎	73	2,349	2,184	165	75
337-C	佐賀・長崎	84	3,100	2,599	501	23
337-D	鹿児島・沖縄	80	2,375	2,170	205	-12
337-E	熊本	58	1,587	1,449	138	18
337	計	412	13,913	12,384	1,529	182
総計		3,253	104,572	92,921	11,651	998
世界のライオンズの		7.1%	7.8%			

日本ライオンズクラブ分布図

世界のライオンズ

2011.12.31　国際協会集計

ライオンズ国または領域	206
世界のクラブ数	46,105
世界の会員数	1,345,304
期首からの増減	3,796

国	クラブ数	会員数	期首からの増減
アメリカ	12,335	351,350	-6,223
インド	6,002	212,590	7,899
韓国	2,112	83,946	609

51st OSEAL Forum

第51回東洋・東南アジア(OSEAL)フォーラム・福岡

■フォーラム・テーマ
LEADERSHIP

■期間
2012年11月8日(木)~11日(日)

■主要会場
マリンメッセ福岡（開会式）
福岡国際会議場（各種会議・セミナー）
ホテルニューオータニ博多（閉会式）

■第51回東洋・東南アジア・フォーラム組織委員会事務局
〒810-0004
福岡市中央区渡辺通1-1-2
ホテルニューオータニ博多5F
TEL:092-741-8601
FAX:092-741-8607
E-mail:lc51forum@iaa.itkeeper.ne.jp

ライオン誌2月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可 定価180円 送料実費76円
2012年(平成24年)1月20日発行 毎月1回20日発行 第54巻第8号
発行所 ライオンズクラブ国際協会ライオン誌日本語版事務所 〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階 Tel 03-3542-9571
印刷所 共同印刷株式会社